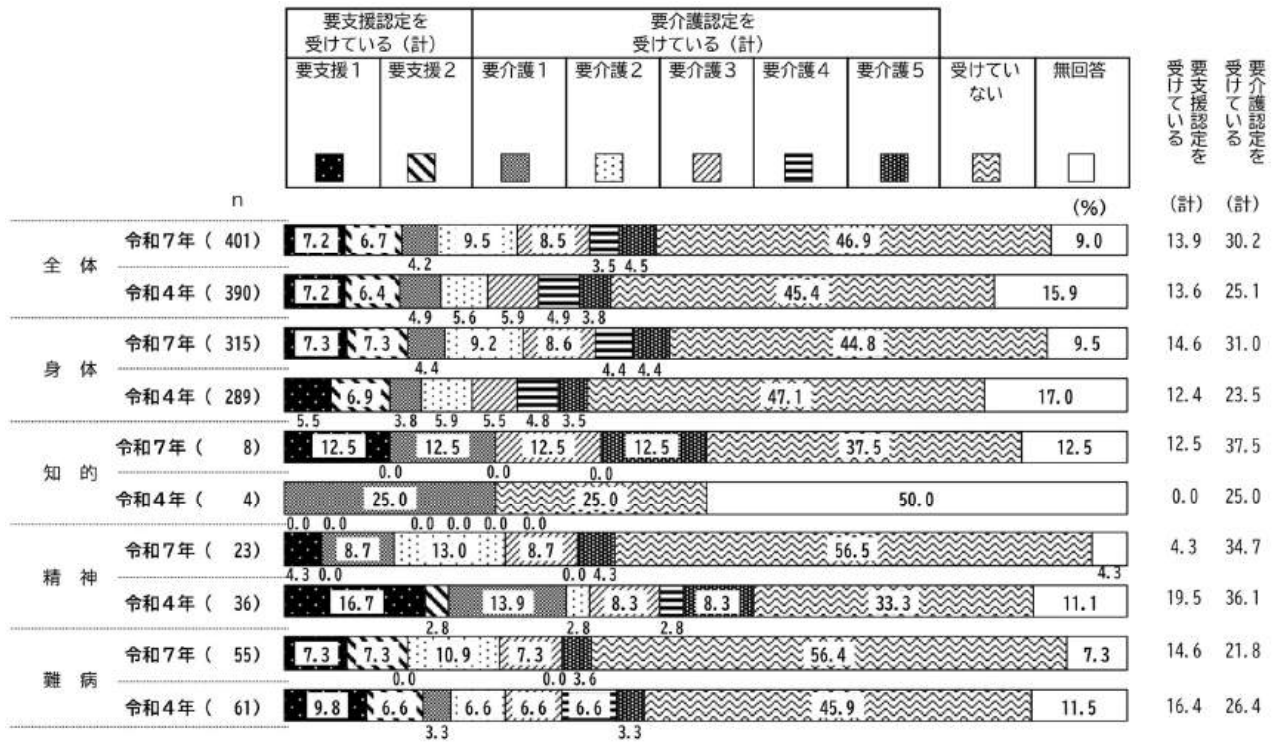


**【経年比較】**

令和4年調査と比較すると、全体では大きな傾向の違いはみられない。

調査票種別でみると、『要支援認定を受けている（計）』は知的で12.5ポイント増加し、精神で15.2ポイント減少している。

要介護認定（経年比較）＜全体（身体、知的、精神、難病）＞



### (3) 介護保険サービスの利用の有無

#### <身体、知的、精神、難病調査の質問>

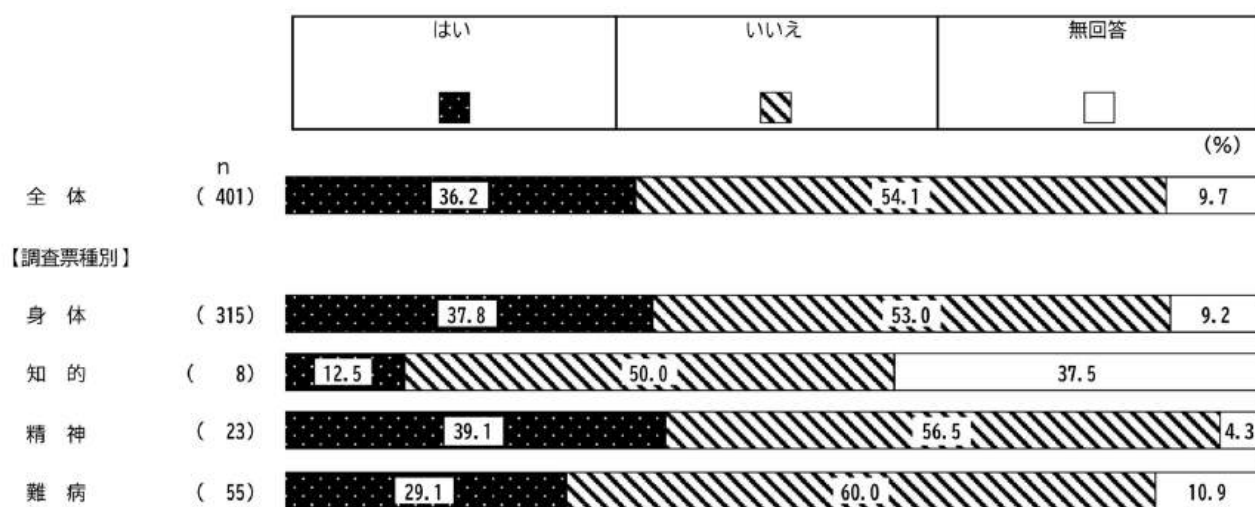
問 要介護認定や介護保険によるサービスについてお聞きします。

(2) あなたは介護保険によるサービスを利用していますか。(1つだけに○)

介護保険サービスの利用の有無について、全体で見ると、「はい」が36.2%、「いいえ」は54.1%となっている。

調査票種別で見ると、精神では「はい」が39.1%となっており、全体と比べて割合が高くなっている。

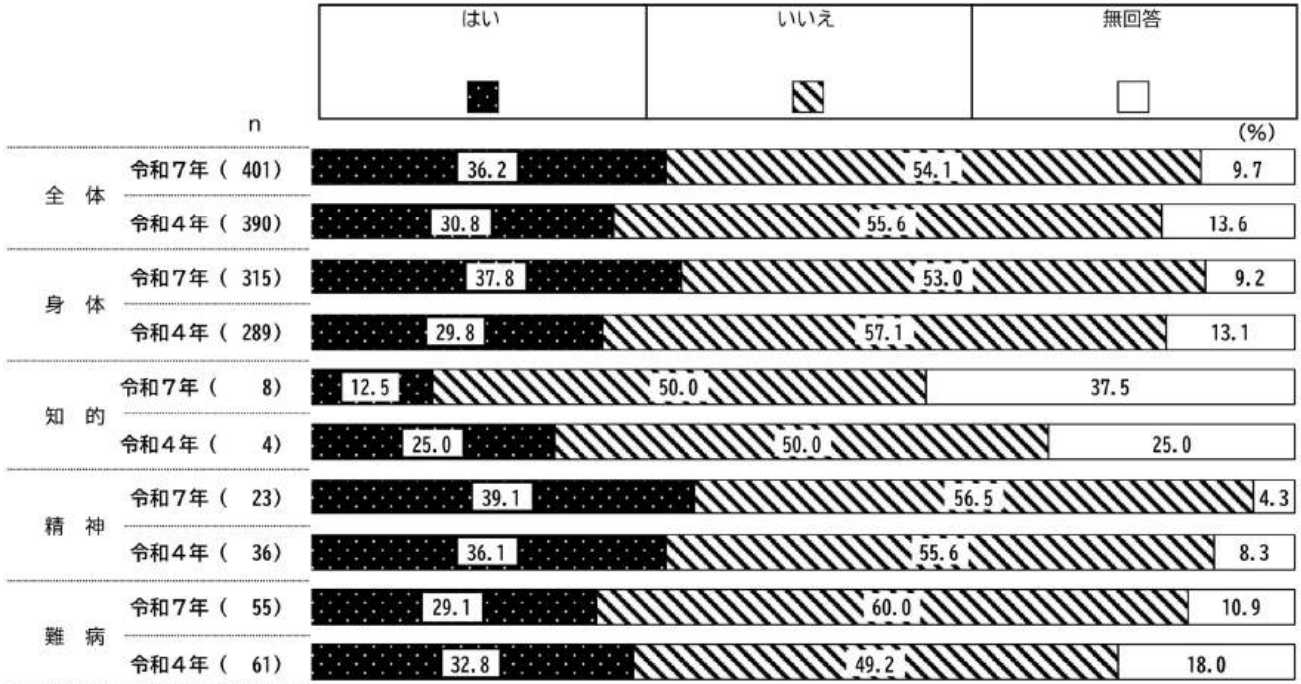
#### 介護保険サービスの利用の有無 <全体(身体、知的、精神、難病)>



**【経年比較】**

令和4年調査と比較すると、全体では、「はい」が5.4ポイント増加している。  
 調査票種別でみると、「はい」が身体で8.0ポイント増加し、知的で12.5ポイント減少している。

介護保険サービスの利用の有無（経年比較）＜全体（身体、知的、精神、難病）＞



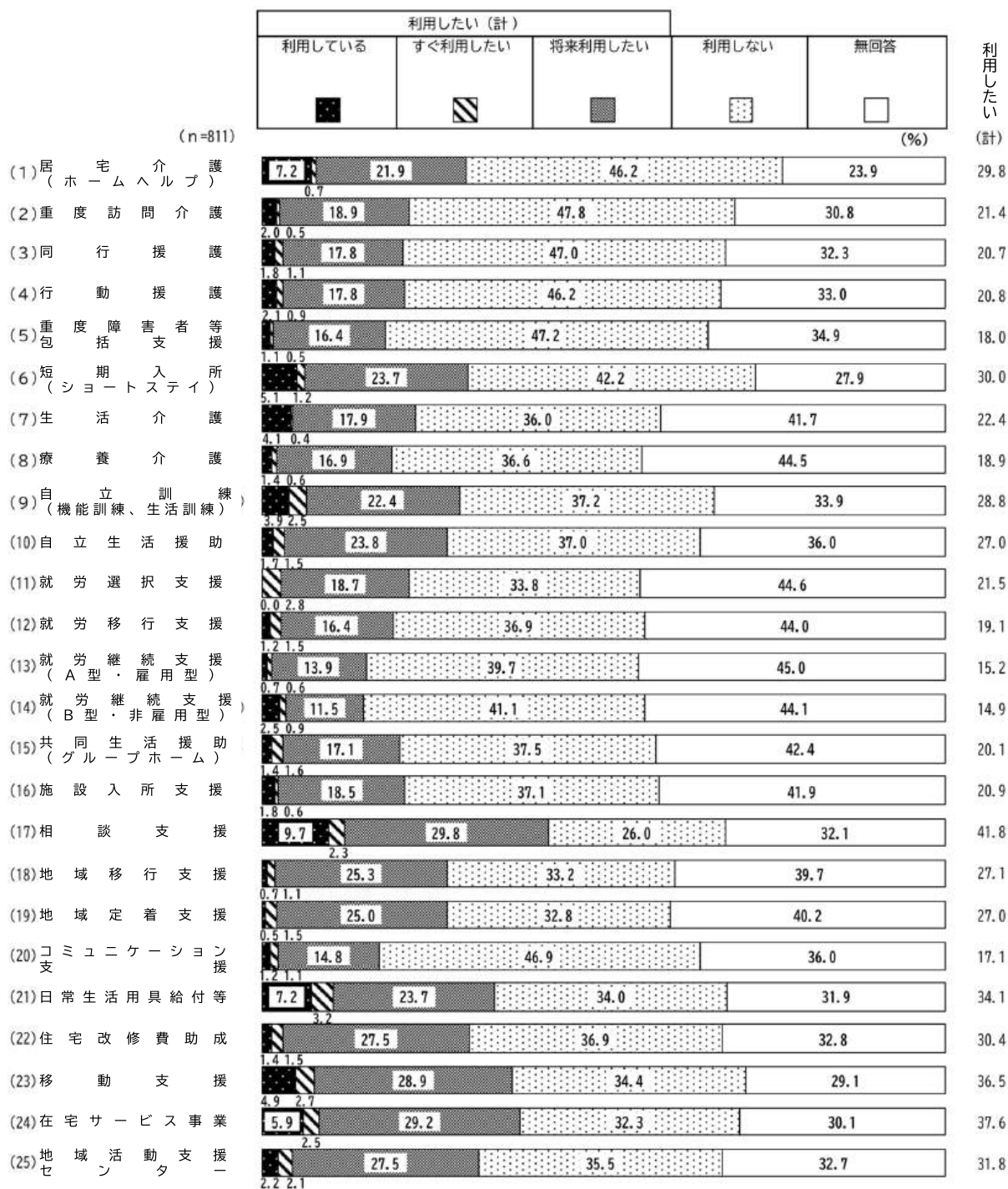
#### (4) 障害福祉サービスの利用状況及び利用希望

問 あなたは次のサービスを利用していますか。また、今後利用したいと考えますか。以下のサービスについて、あなたの利用に関する意向等をお答えください。(○はそれぞれのサービスごとに1つずつ。「利用しない」を選んだ方はその理由に○を1つずつ)

障害福祉サービスの利用状況及び利用希望について、全体で見ると、「利用している」、「すぐ利用したい」、「将来利用したい」を合わせた『利用したい(計)』は“相談支援”で41.8%と最も高く、次いで“在宅サービス事業”で37.6%、“移動支援”で36.5%などとなっている。

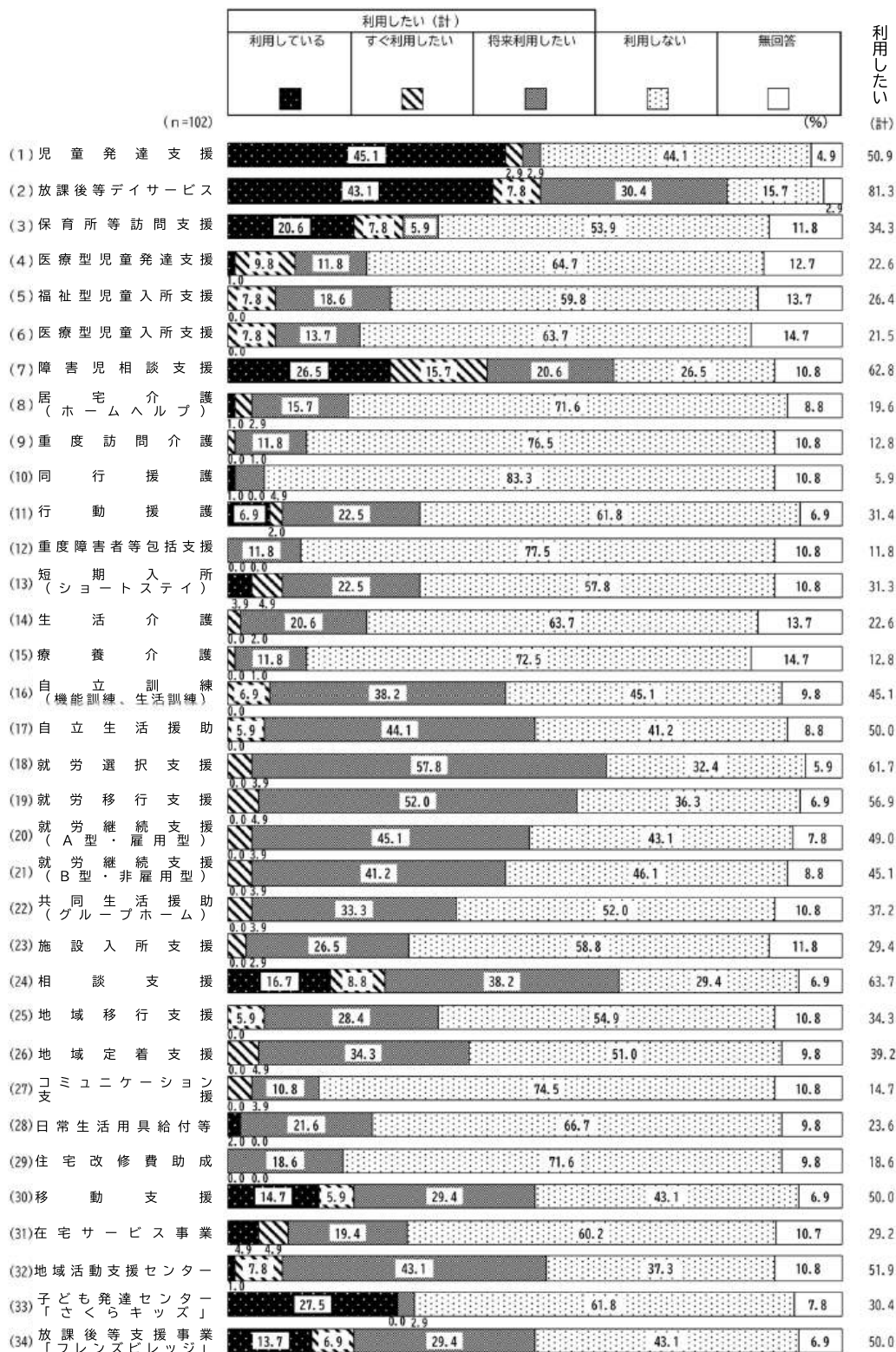
#### 障害福祉サービスの利用状況及び利用希望 <全体(身体、知的、精神、難病)>

##### 【利用状況及び利用希望】



障害児の障害福祉サービスの利用状況及び利用希望をみると、「利用している」は“児童発達支援”で45.1%と最も高く、次いで“放課後等デイサービス”で43.1%、“子ども発達センター「さくらキッズ」”で27.5%などとなっている。『利用したい(計)』は“放課後等デイサービス”で81.3%と最も高く、次いで“相談支援”で63.7%、“障害児相談支援”で62.8%などとなっている。また「将来利用したい」では“就労選択支援”で57.8%と最も高く、期待値が高いことがうかがわれる。

障害福祉サービスの利用状況及び利用希望 <障害児>  
【利用状況及び利用希望】



## 【経年比較】

令和4年調査と比較すると、全体では、大半の障害福祉サービスの『利用したい（計）』は増加しており、“同行援護”で6.2ポイント、“重度障害者等包括支援”で5.6ポイント、“日常生活用具給付等”で5.3ポイント、“在宅サービス事業”で5.0ポイントそれぞれ増加している。一方、“共同生活援助（グループホーム）”で1.8ポイント、“就労継続支援（B型・非雇用型）”で1.5ポイントそれぞれ減少している。

障害児も同様にほぼすべての障害福祉サービスで『利用したい（計）』は増加しており、“移動支援”で30.9ポイント、“共同生活援助（グループホーム）”で24.4ポイント、“行動援護”で22.9ポイント、“短期入所（ショートステイ）”で22.8ポイントそれぞれ増加している。

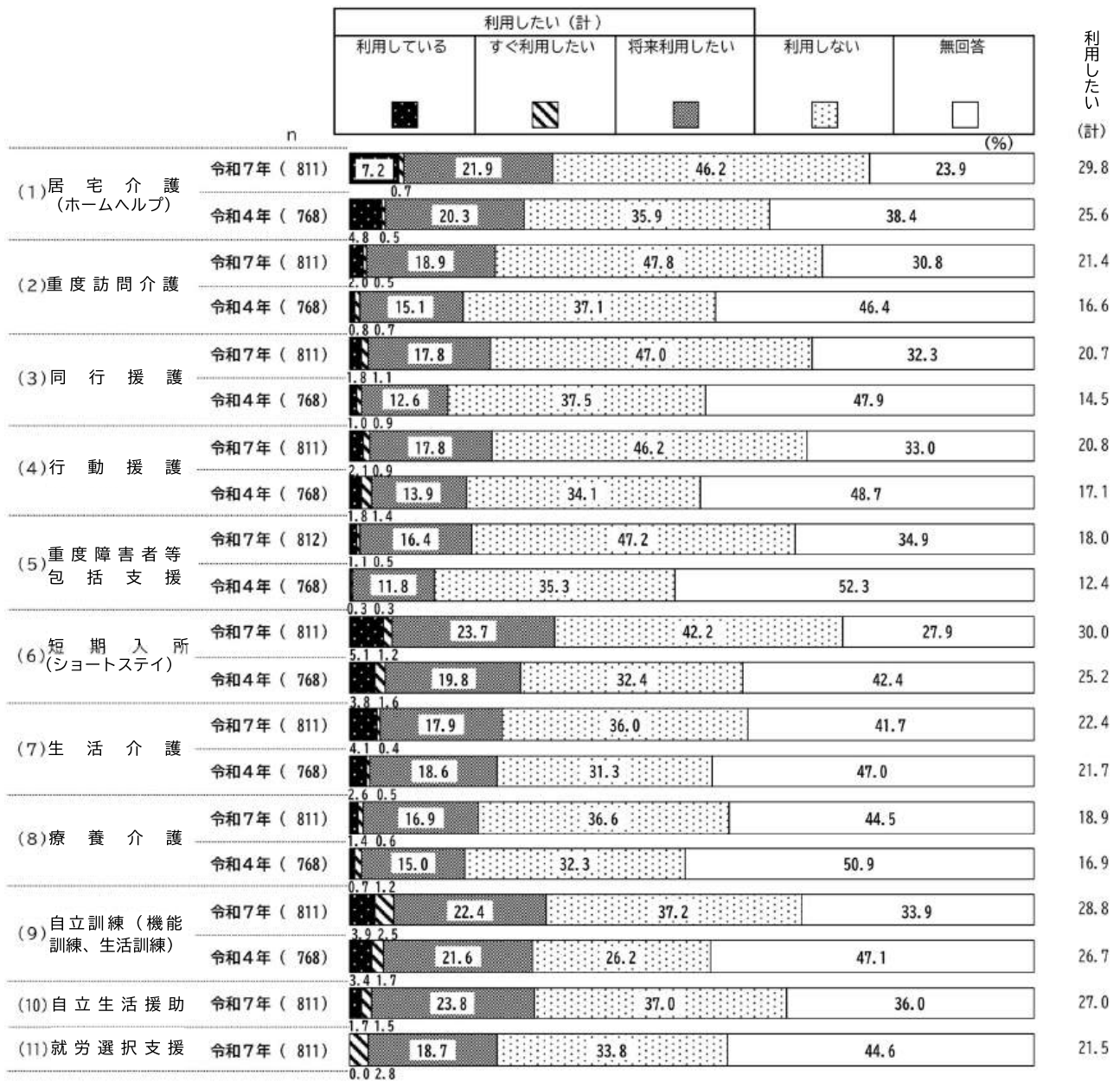
全体と比較して障害児は前回よりも大幅に増加している項目が多く、今後ニーズがさらに高まることが予想される。

全体では、将来利用したい障害福祉サービスとしては“相談支援”・“在宅サービス事業”・“移動支援”となっており、いずれも令和4年度より増加傾向にあることから、今後さらなる需要の高まりが見込まれる。社会情勢の変化に応じて柔軟な施策の見直しが求められるため、今後利用しない可能性が増えていくと思われる障害福祉サービスと照らし合わせながら、時代に沿ったニーズに答えていくことが求められる。

障害児では、将来利用したい障害福祉サービスとしては“就労選択支援”・“就労移行支援”・“就労継続支援（A型・雇用型）”といずれも雇用に関する施策となっている。障害児が社会で共に働き自立して生きていくための土台づくりや、人材育成の支援体制の構築が今後重視される。

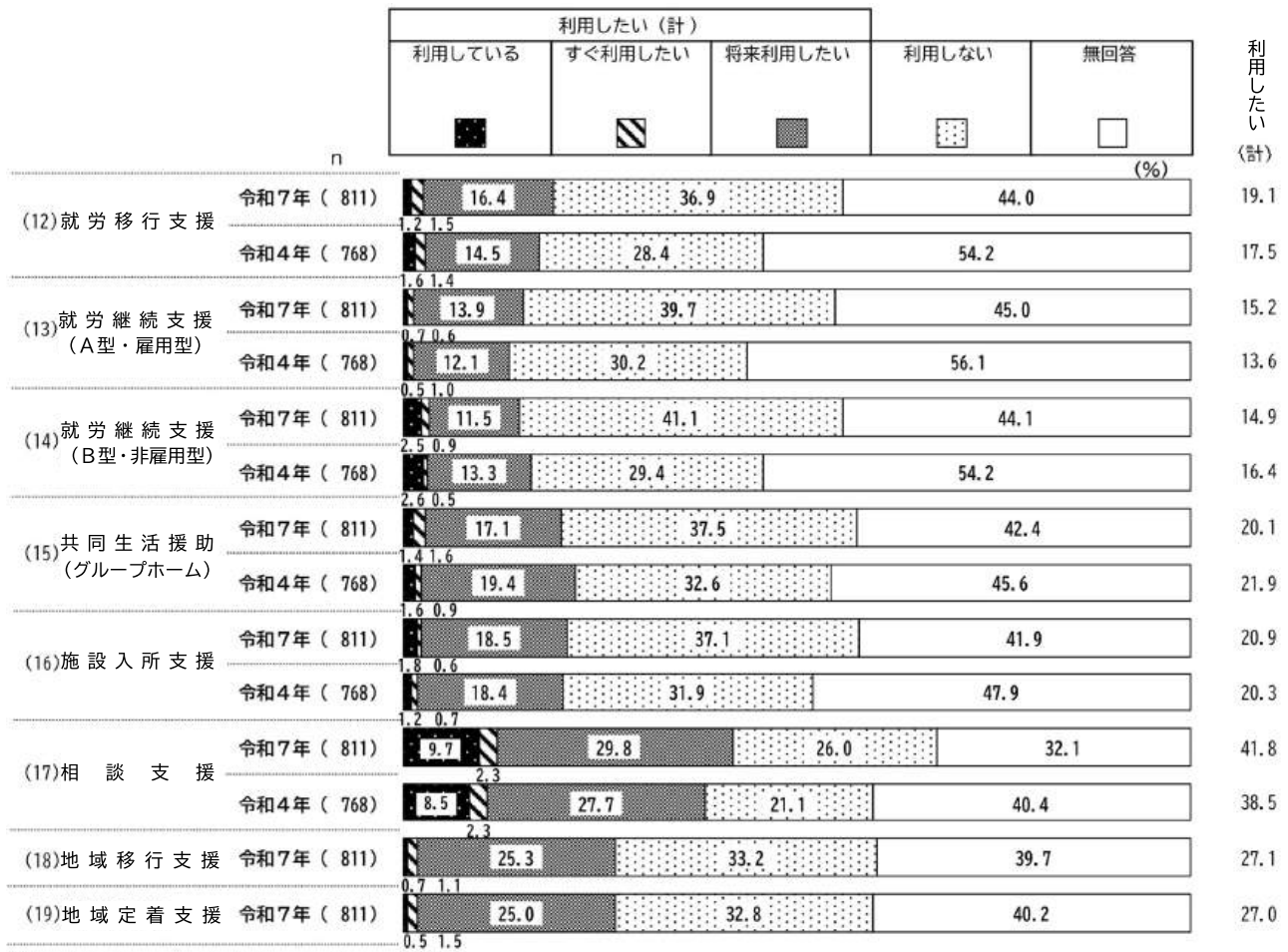
障害福祉サービスの利用状況及び利用希望（経年比較）＜全体（身体、知的、精神、難病）＞

【利用状況及び利用希望】



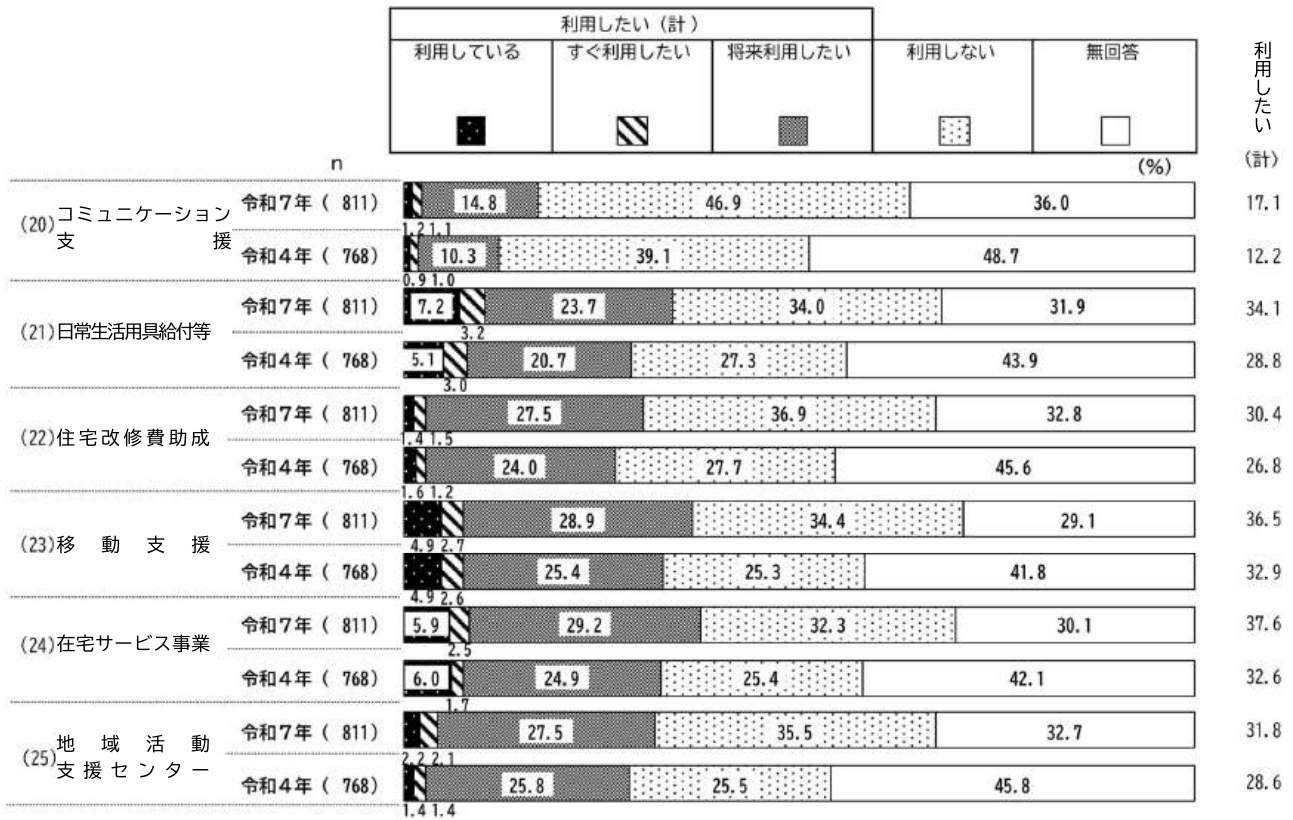
障害福祉サービスの利用状況及び利用希望（経年比較）＜全体（身体、知的、精神、難病）＞

【利用状況及び利用希望】（続き）



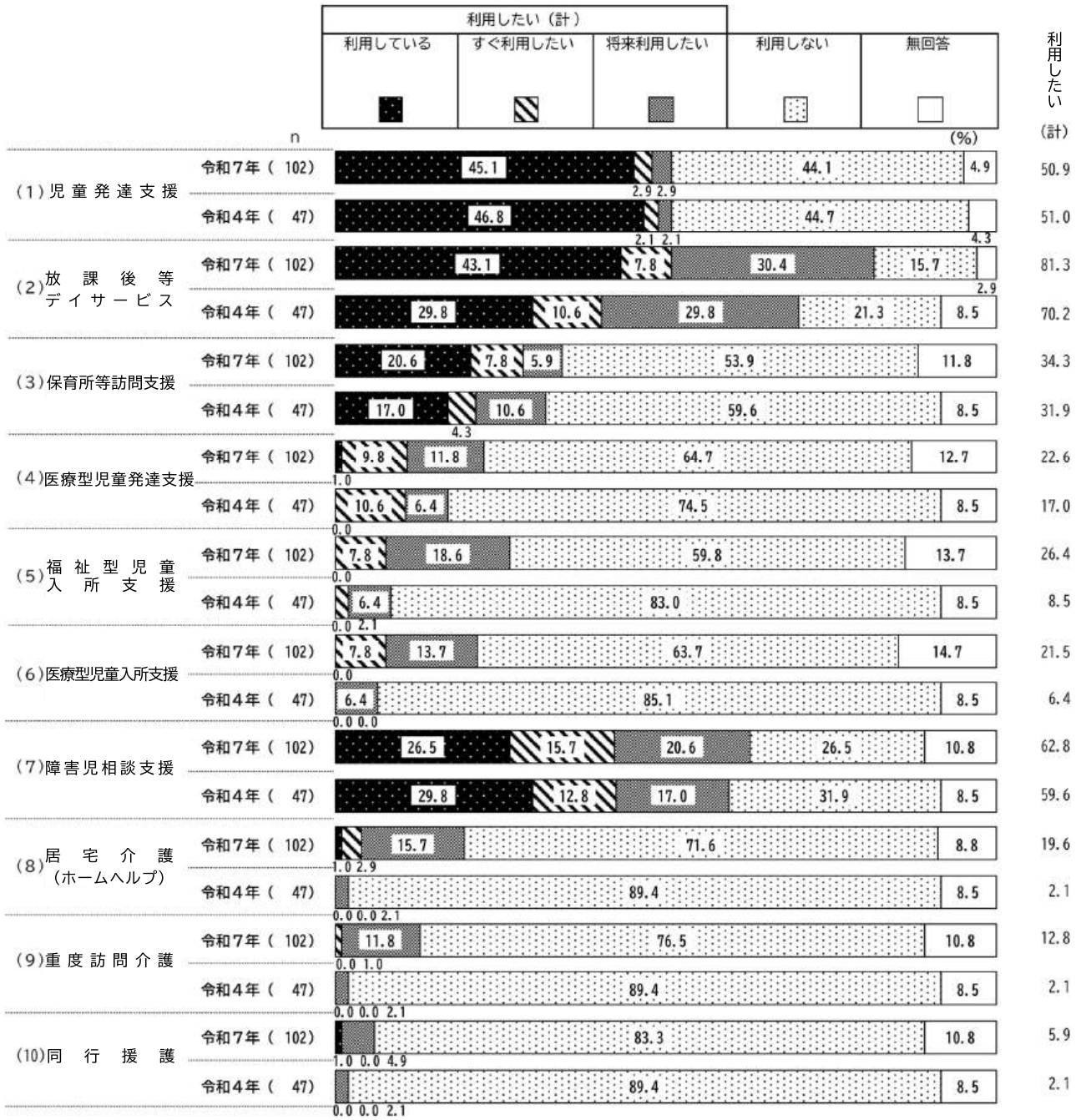
障害福祉サービスの利用状況及び利用希望（経年比較）＜全体（身体、知的、精神、難病）＞

【利用状況及び利用希望】（続き）



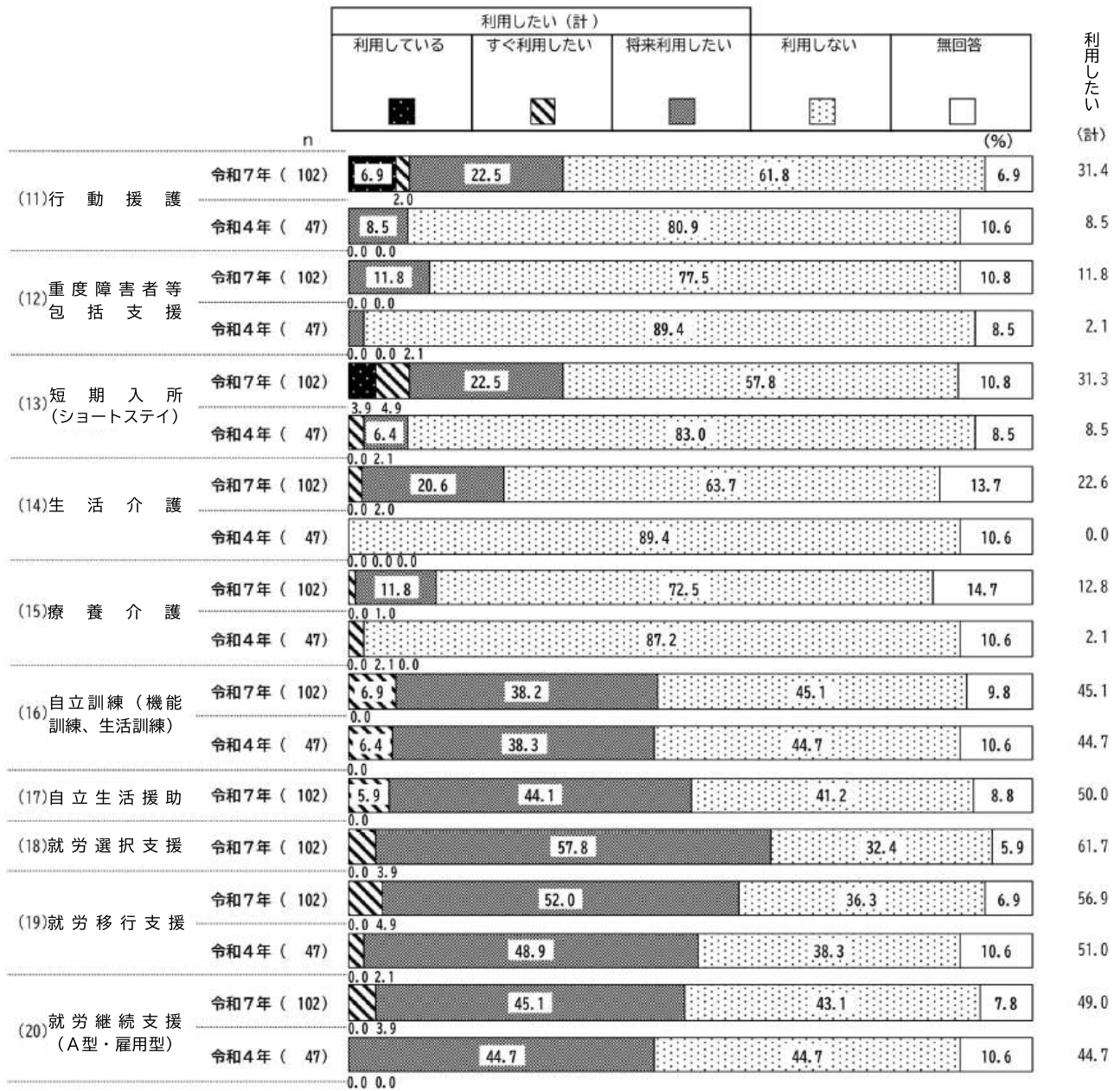
障害福祉サービスの利用状況及び利用希望（経年比較）＜障害児＞

【利用状況及び利用希望】



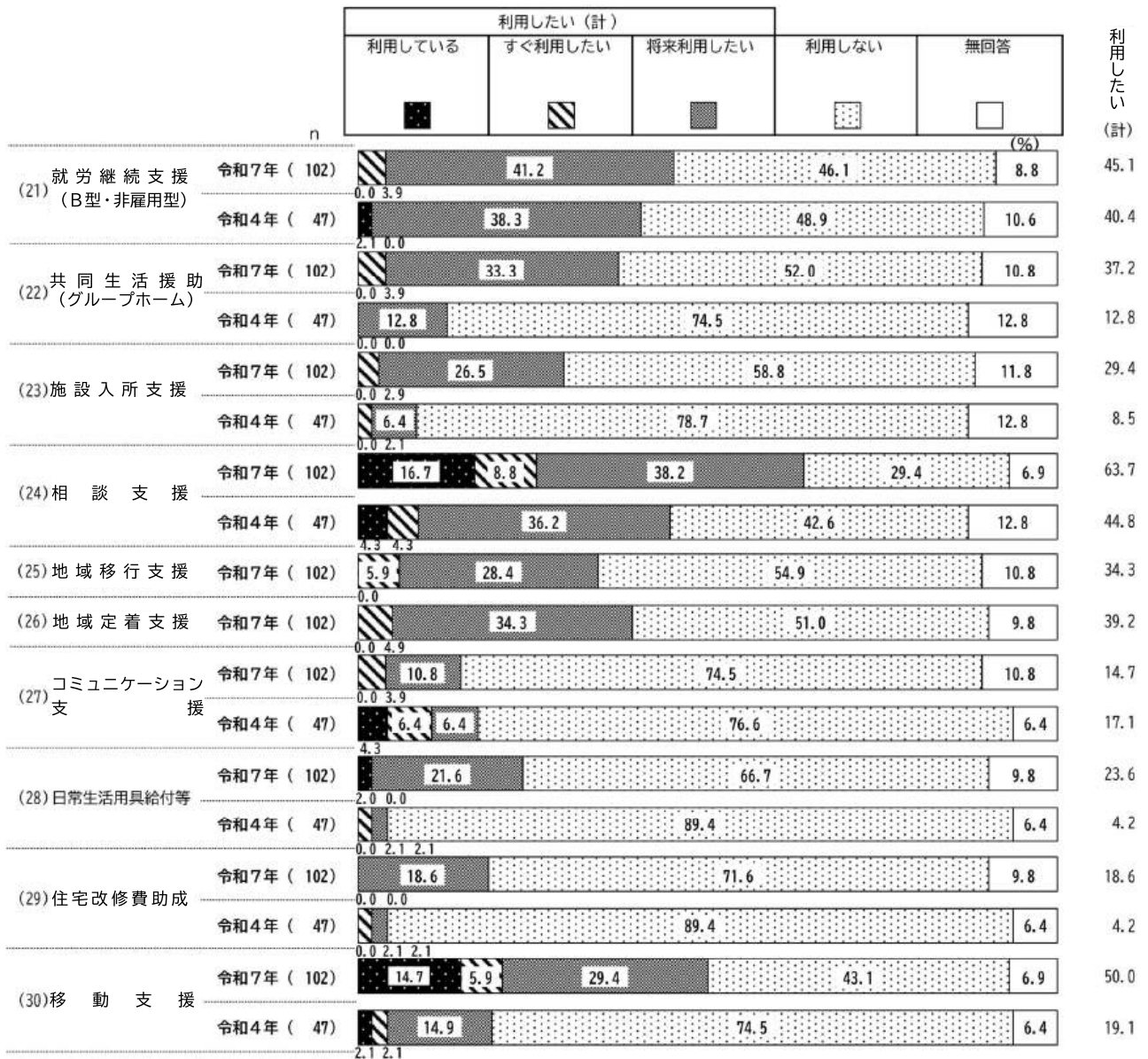
障害福祉サービスの利用状況及び利用希望（経年比較）＜障害児＞

【利用状況及び利用希望】（続き）



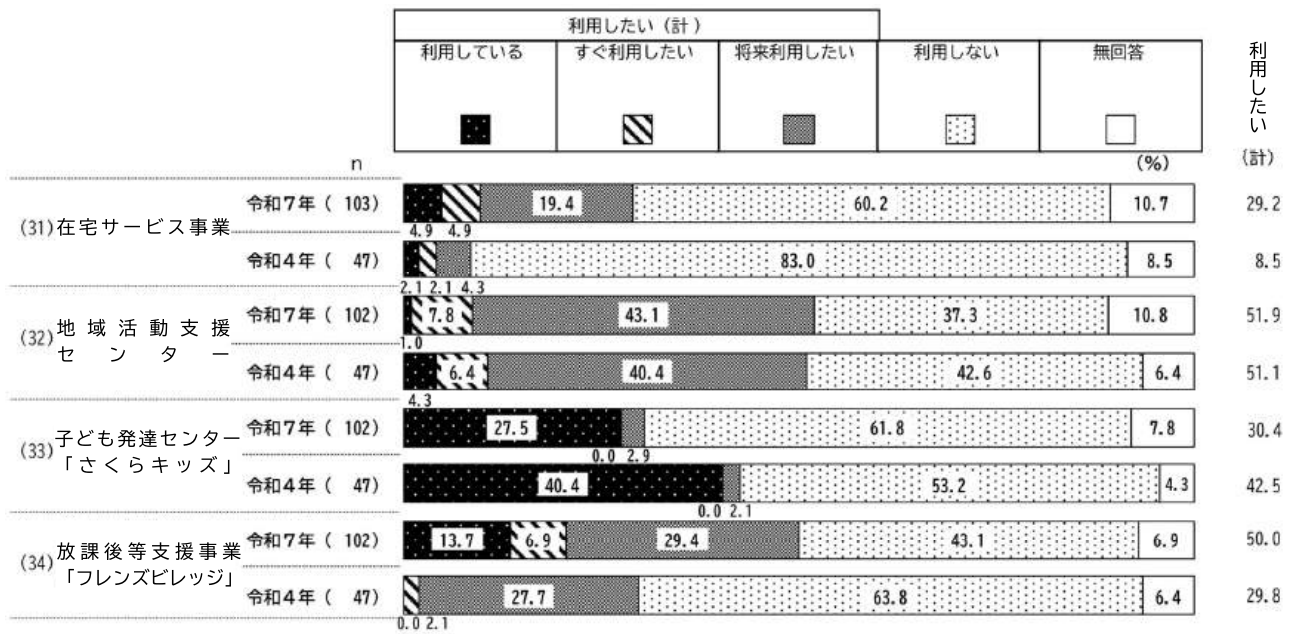
障害福祉サービスの利用状況及び利用希望（経年比較）＜障害児＞

【利用状況及び利用希望】（続き）



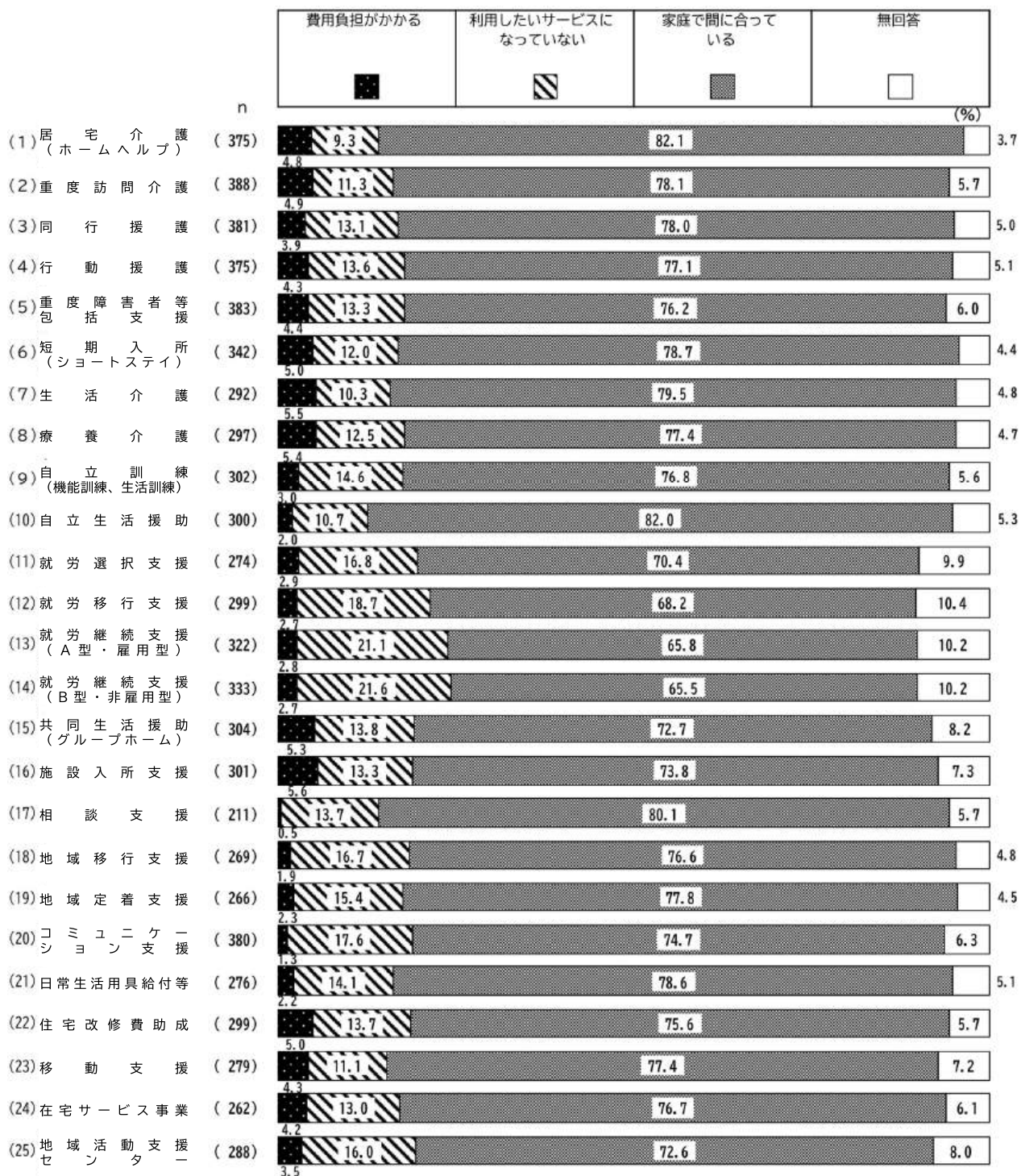
障害福祉サービスの利用状況及び利用希望（経年比較）＜障害児＞

【利用状況及び利用希望】（続き）



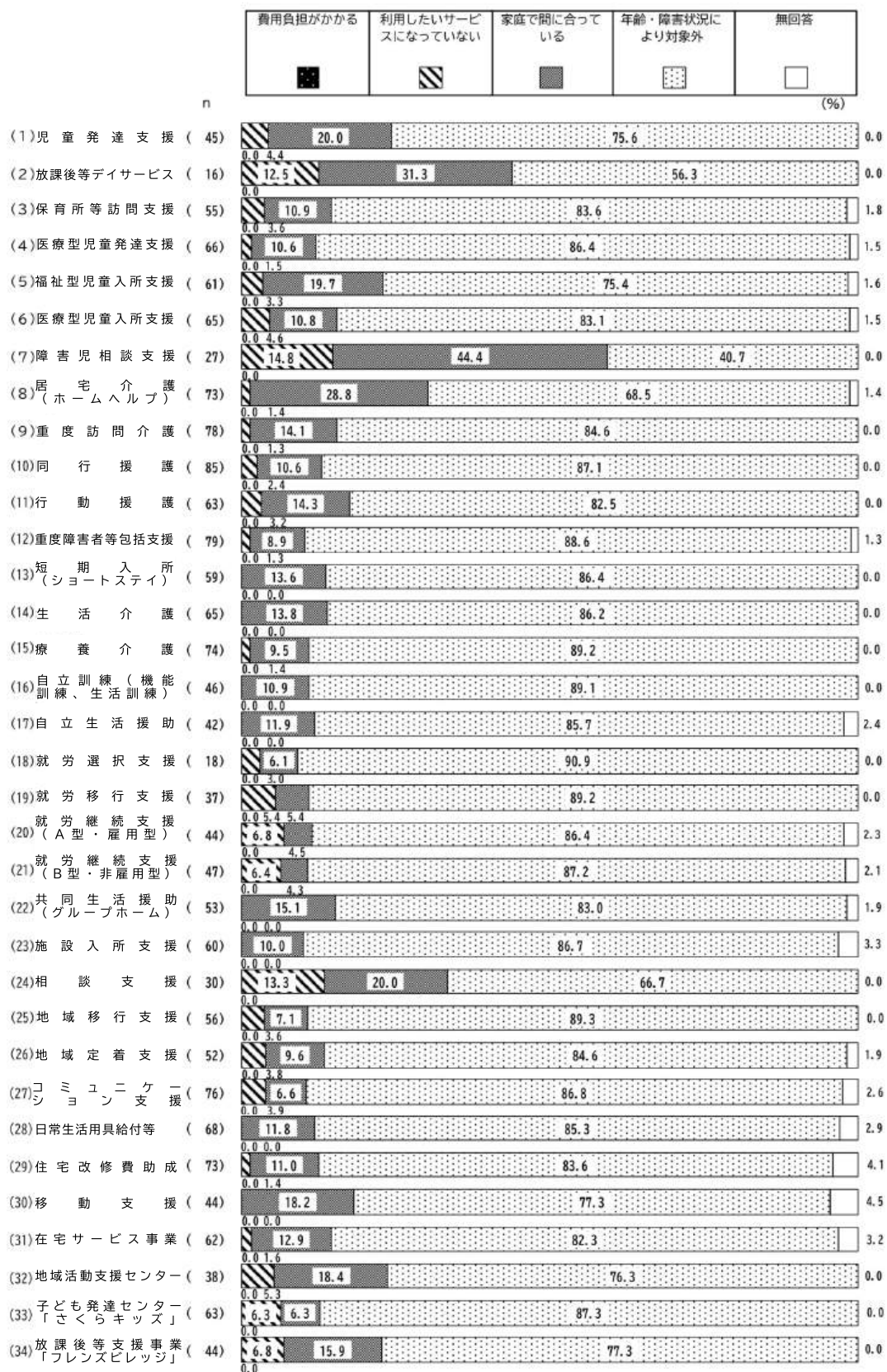
障害福祉サービスを「利用しない」と答えた方の理由を、全体で見ると、すべての項目で「家庭で間に合っている」の割合が最も高くなっており、“居宅介護（ホームヘルプ）”で82.1%と最も高く、次いで“自立生活援助”で82.0%、“相談支援”で80.1%などとなっている。「利用したいサービスになっていない」は“就労継続支援（B型・非雇用型）”で21.6%と最も高く、次いで“就労継続支援（A型・雇用型）”で21.1%などとなっており、就労関連の障害福祉サービスについて見直しを求める声が見受けられる。

障害福祉サービスの利用状況及び利用希望 <全体（身体、知的、精神、難病）>  
【利用しない理由】



障害児の障害福祉サービスを「利用しない」と答えた方の理由をみると、「利用したいサービスになっていない」、「家庭で間に合っている」ともに、“障害児相談支援”でそれぞれ14.8%、44.4%と最も高くなっている。

### 障害福祉サービスの利用状況及び利用希望 <障害児> 【利用しない理由】



## 【経年比較】

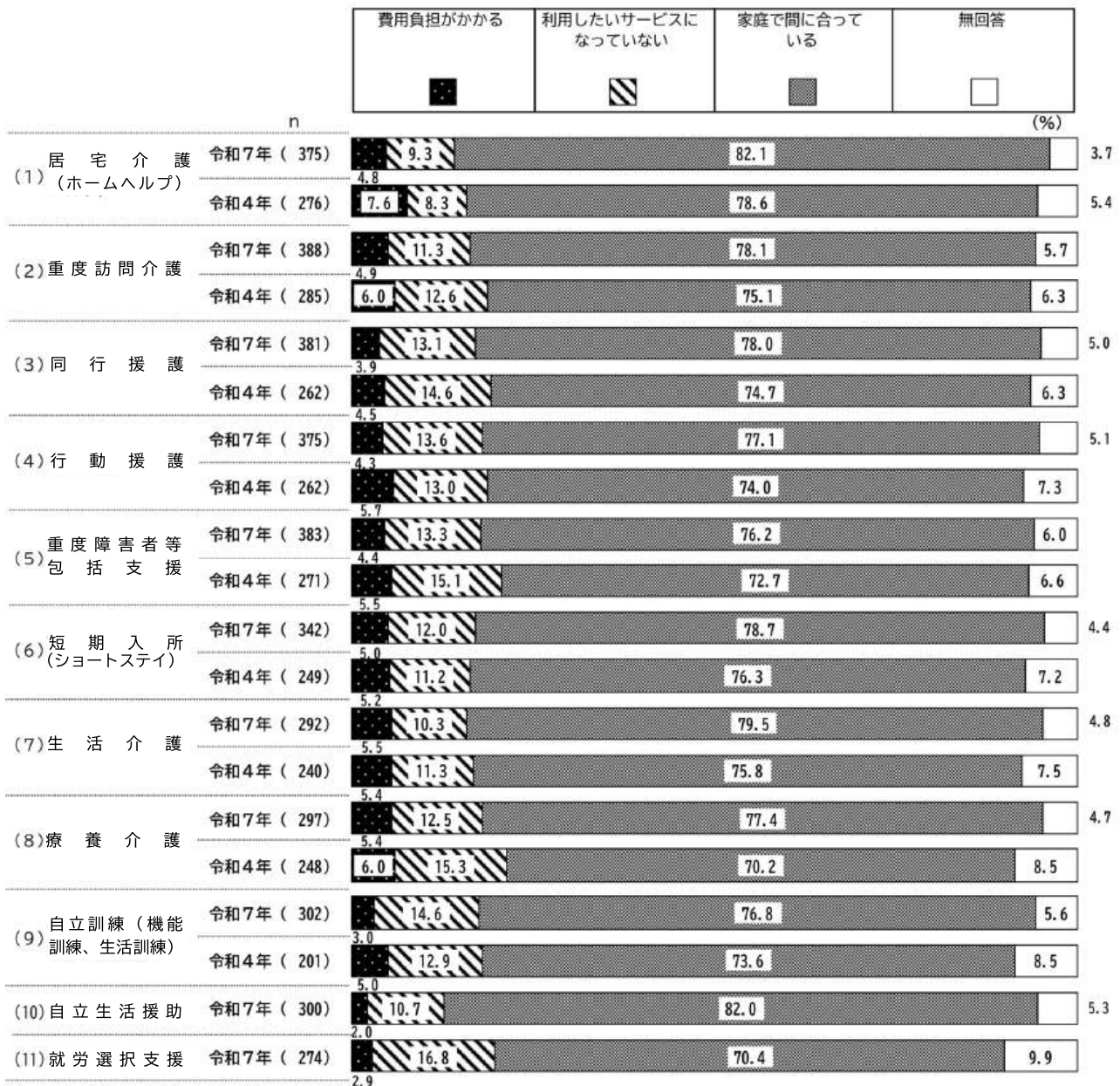
令和4年調査と比較すると、全体では大きな傾向の違いはみられない。

障害児では、「家庭で間に合っている」は“相談支援”で15.0ポイント増加し、“移動支援”で18.9ポイント減少している。また令和6年度より、障害児等が障害福祉サービス等を利用した場合の利用者負担額のうち、これまで世帯の所得に応じ生じていた負担額分を区独自にゼロとしたことにより、令和7年度は「費用負担がかかる」と回答した人がゼロとなった。

利用しないと答えた方のうち、「利用したいサービスになっていない」は、全体では、令和4年に引き続き“在宅サービス事業”と“移動支援”で特に増加しており、障害児では“障害児相談支援”と“相談支援”が令和4年よりも特に増加傾向にある。利用者の意見を取り入れ、サービス改善を図る必要があると考えられる。

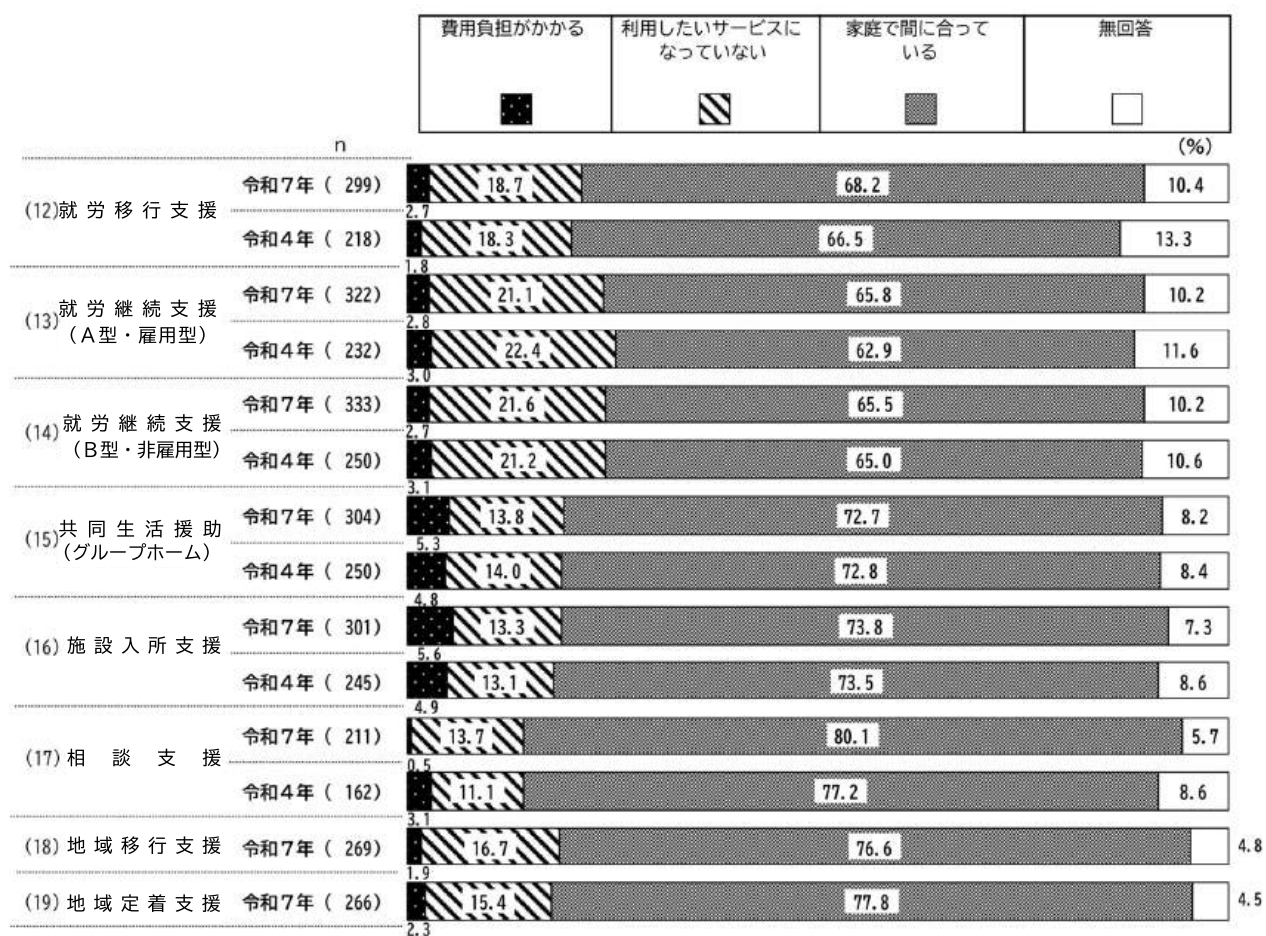
## 障害福祉サービスの利用状況及び利用希望（経年比較）＜全体（身体、知的、精神、難病）＞

### 【利用しない理由】



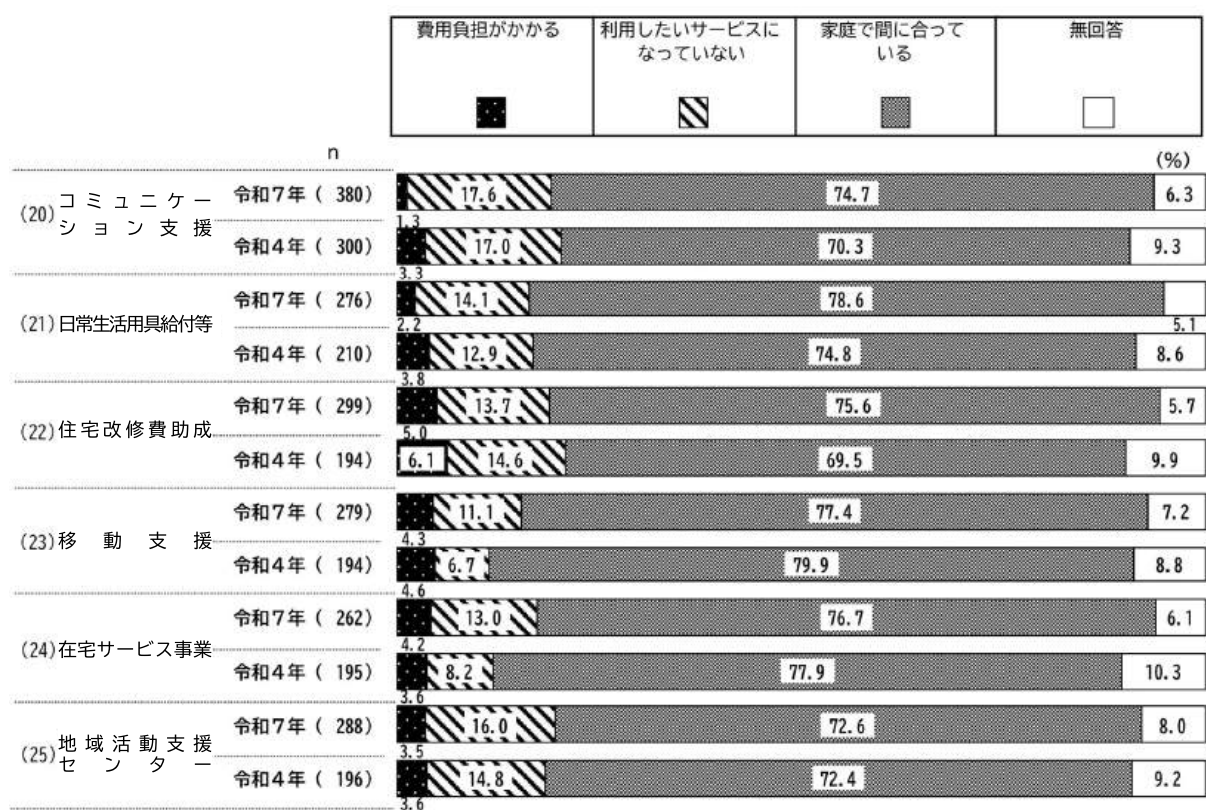
障害福祉サービスの利用状況及び利用希望（経年比較）＜全体（身体、知的、精神、難病）＞

【利用しない理由】（続き）



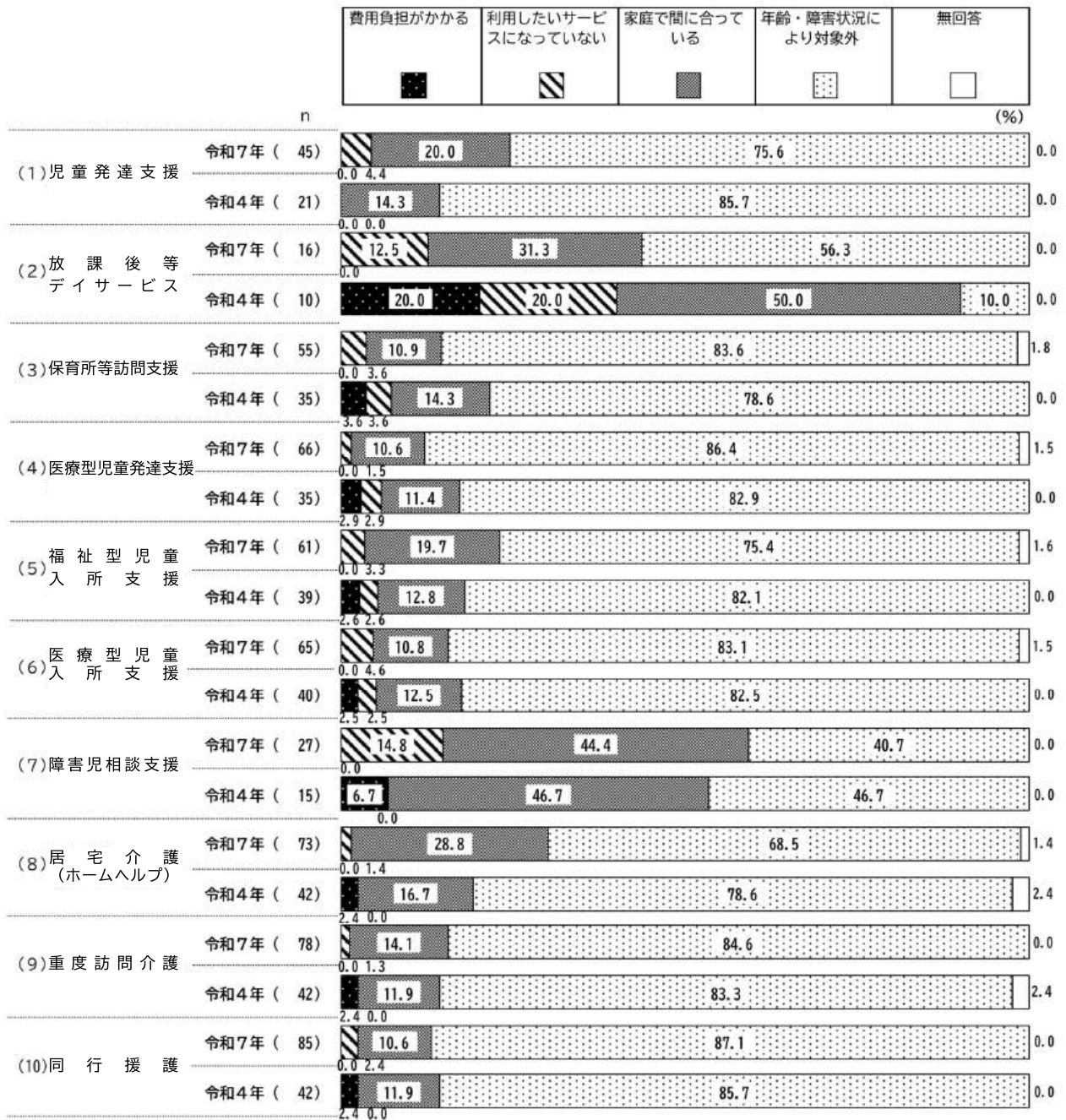
障害福祉サービスの利用状況及び利用希望（経年比較）＜全体（身体、知的、精神、難病）＞

【利用しない理由】（続き）



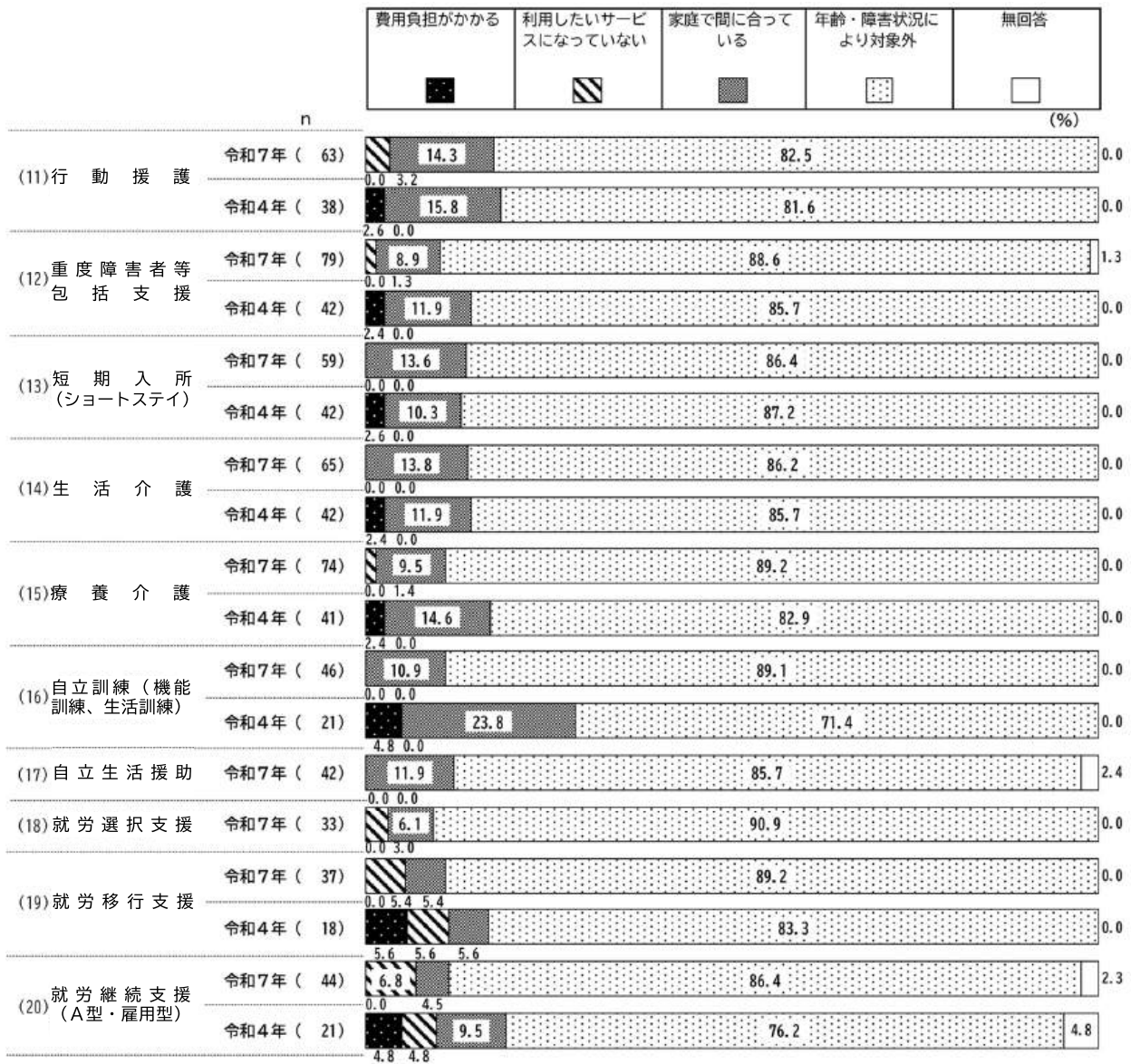
障害福祉サービスの利用状況及び利用希望（経年比較）＜障害児＞

【利用しない理由】



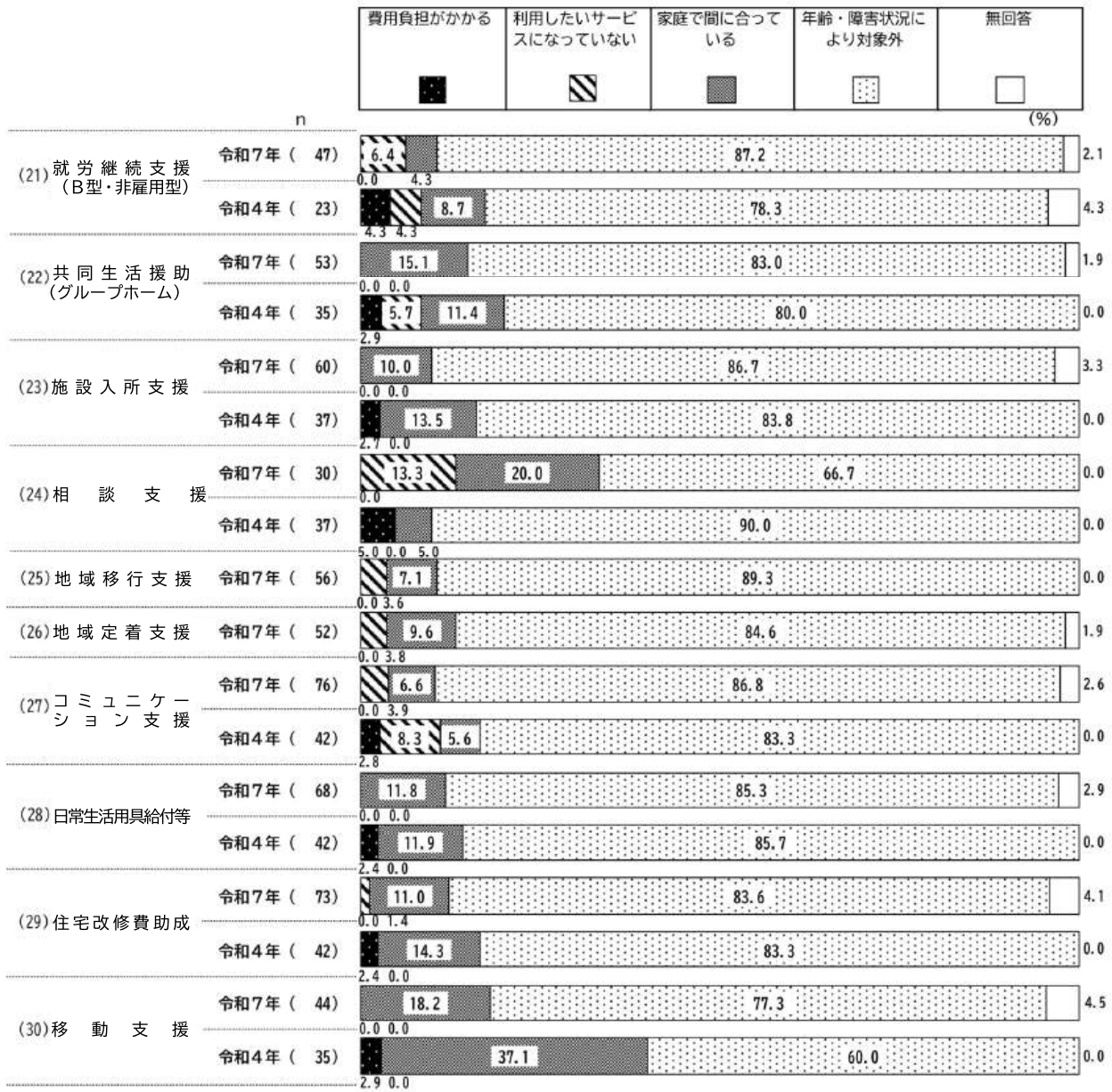
障害福祉サービスの利用状況及び利用希望（経年比較）＜障害児＞

【利用しない理由】（続き）



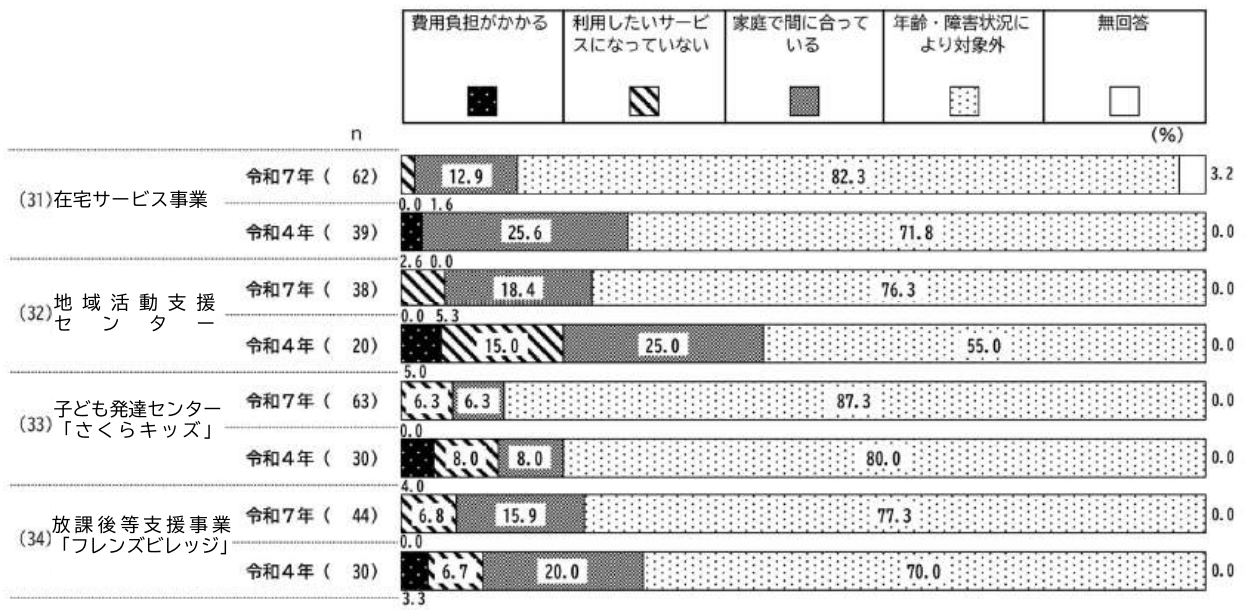
障害福祉サービスの利用状況及び利用希望（経年比較）＜障害児＞

【利用しない理由】（続き）



障害福祉サービスの利用状況及び利用希望（経年比較）＜障害児＞

【利用しない理由】（続き）



## 8 相談相手について

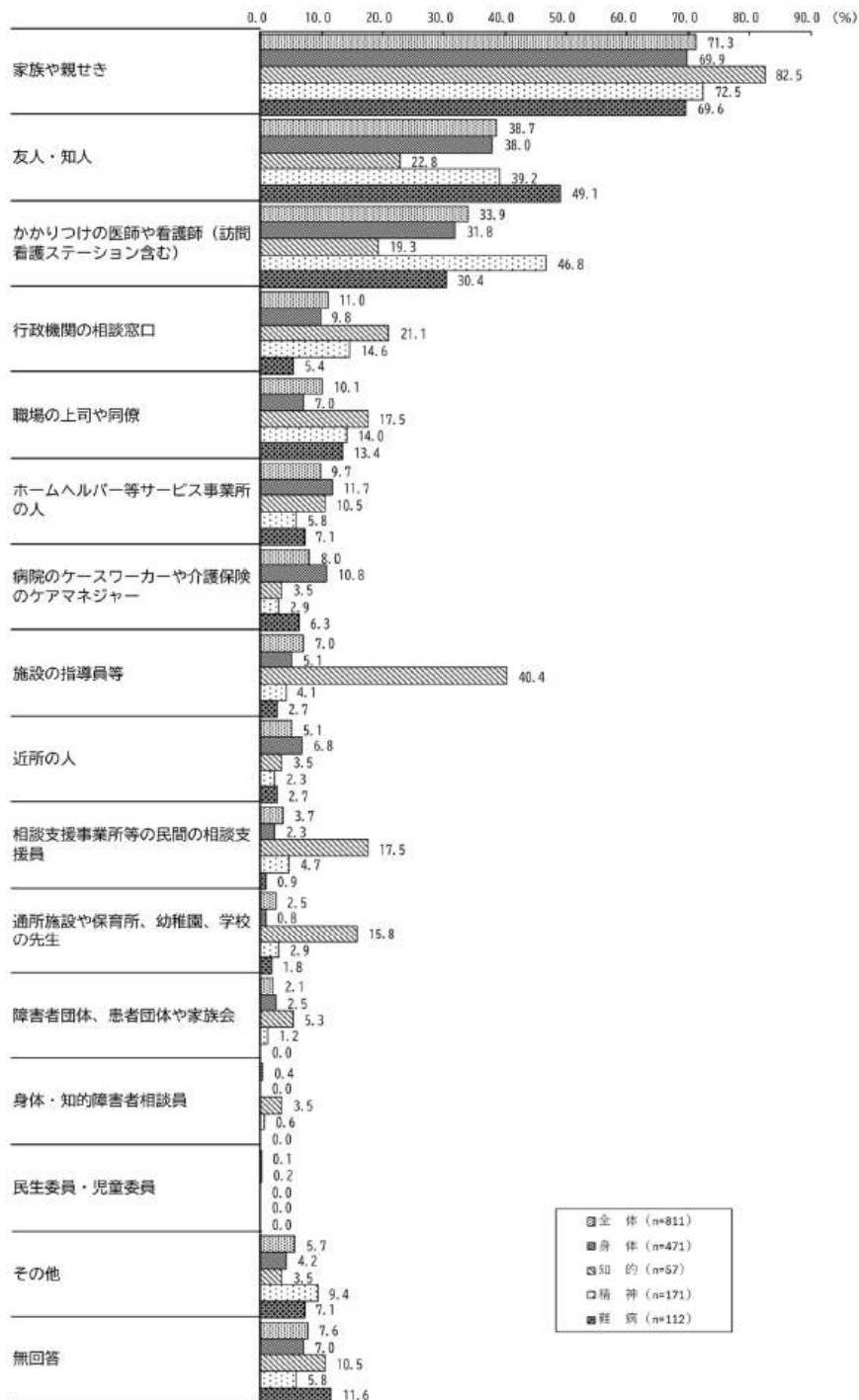
### (1) 悩みや困り事の相談先

問 あなたは普段、悩みや困ったことをどなたに相談しますか。(〇はいくつでも)

悩みや困り事の相談先について、全体でみると、「家族や親せき」が71.3%で最も高く、次いで「友人・知人」が38.7%、「かかりつけの医師や看護師（訪問看護ステーション含む）」が33.9%などとなっている。

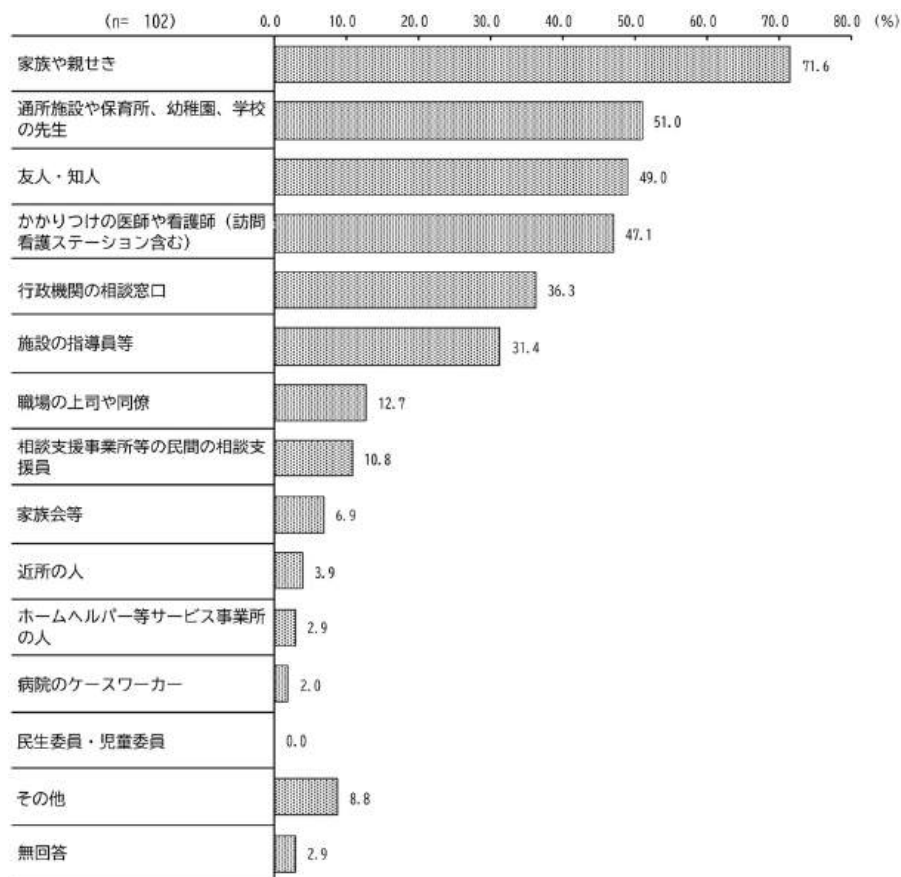
調査票種別でみると、すべての種別で「家族や親せき」の割合が最も高くなっている。

悩みや困り事の相談先 <全体（身体、知的、精神、難病）>



障害児の悩みや困り事の相談先をみると、「家族や親せき」が71.6%で最も高く、次いで「通所施設や保育所、幼稚園、学校の先生」が51.0%、「友人・知人」が49.0%などとなっている。

### 悩みや困り事の相談先 <障害児>



### 【経年比較】

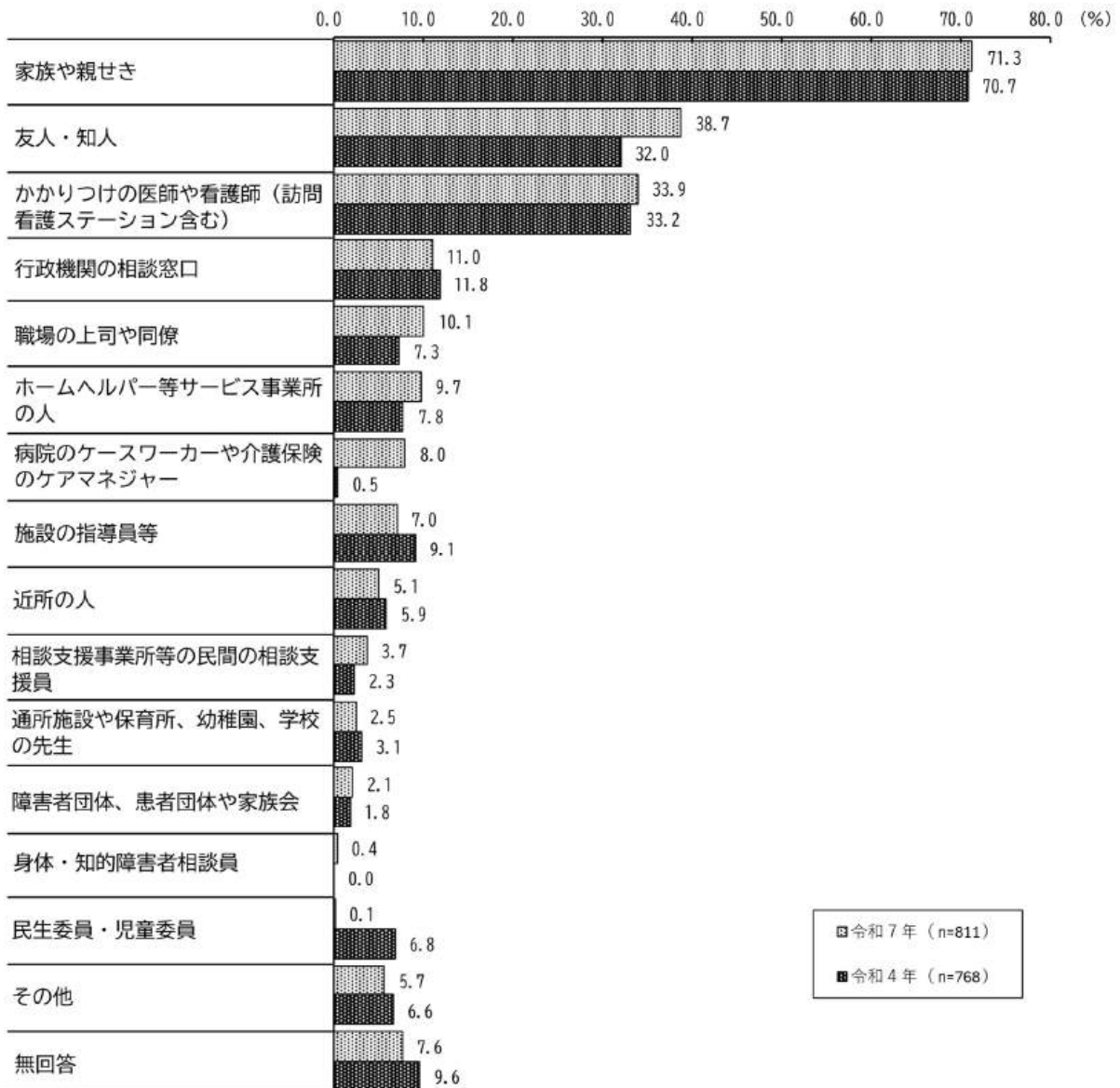
令和4年調査と比較すると、全体では、「病院のケースワーカーや介護保険のケアマネジャー」が7.5ポイント、「友人・知人」が6.7ポイントそれぞれ増加している一方、「民生委員・児童委員」が6.7ポイント減少している。

調査票種別でみると、難病で「友人・知人」が11.1ポイント増加し、「家族や親せき」が9.1ポイント減少している。

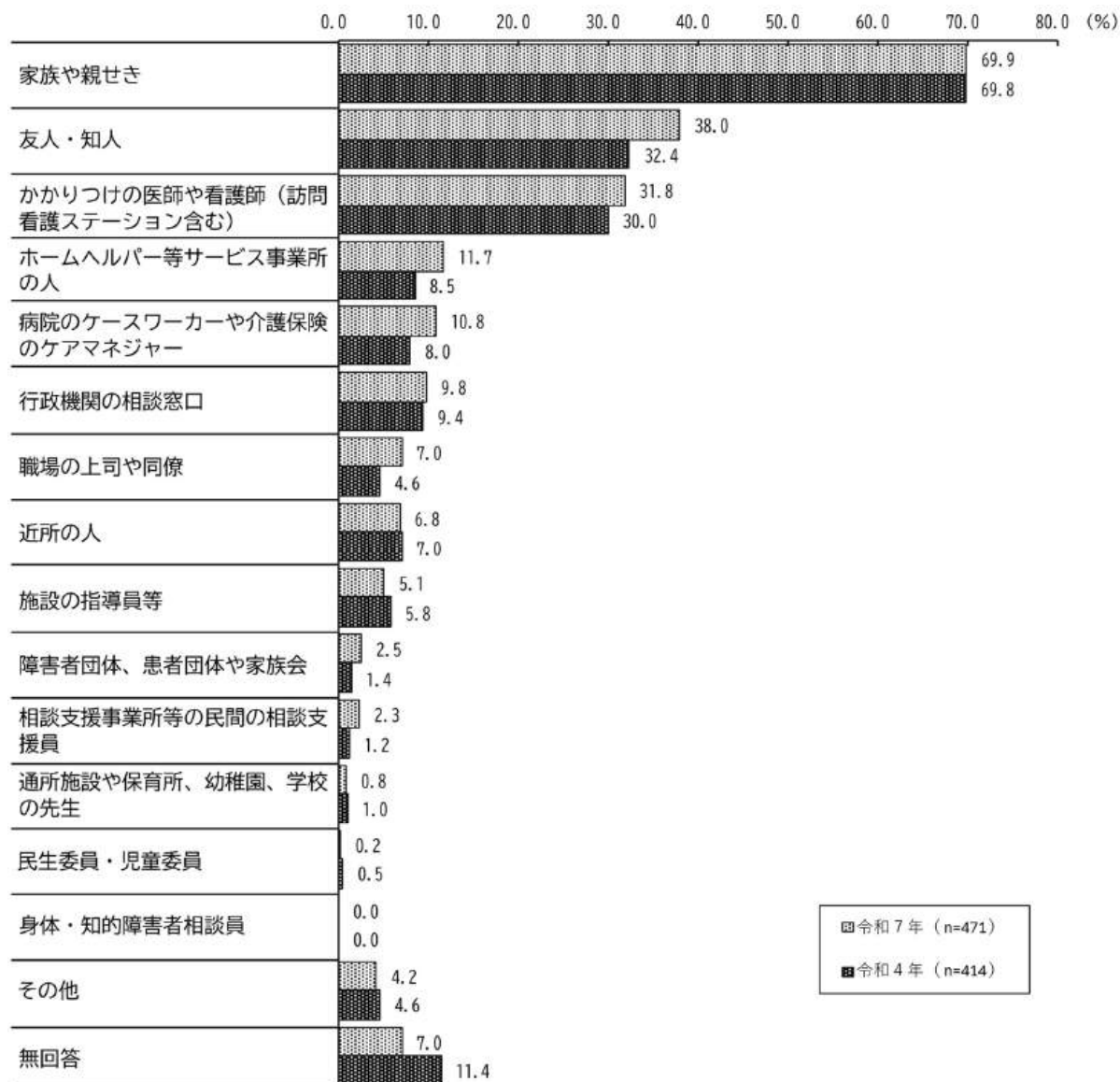
障害児では、「施設の指導員等」が14.4ポイント増加し、「行政機関の相談窓口」が23.3ポイント、「通所施設や保育所、幼稚園、学校の先生」が21.3ポイントそれぞれ減少している。

全体・障害児ともに、令和4年に引き続き「家族や親せき」への相談が最も多い傾向が続いている。

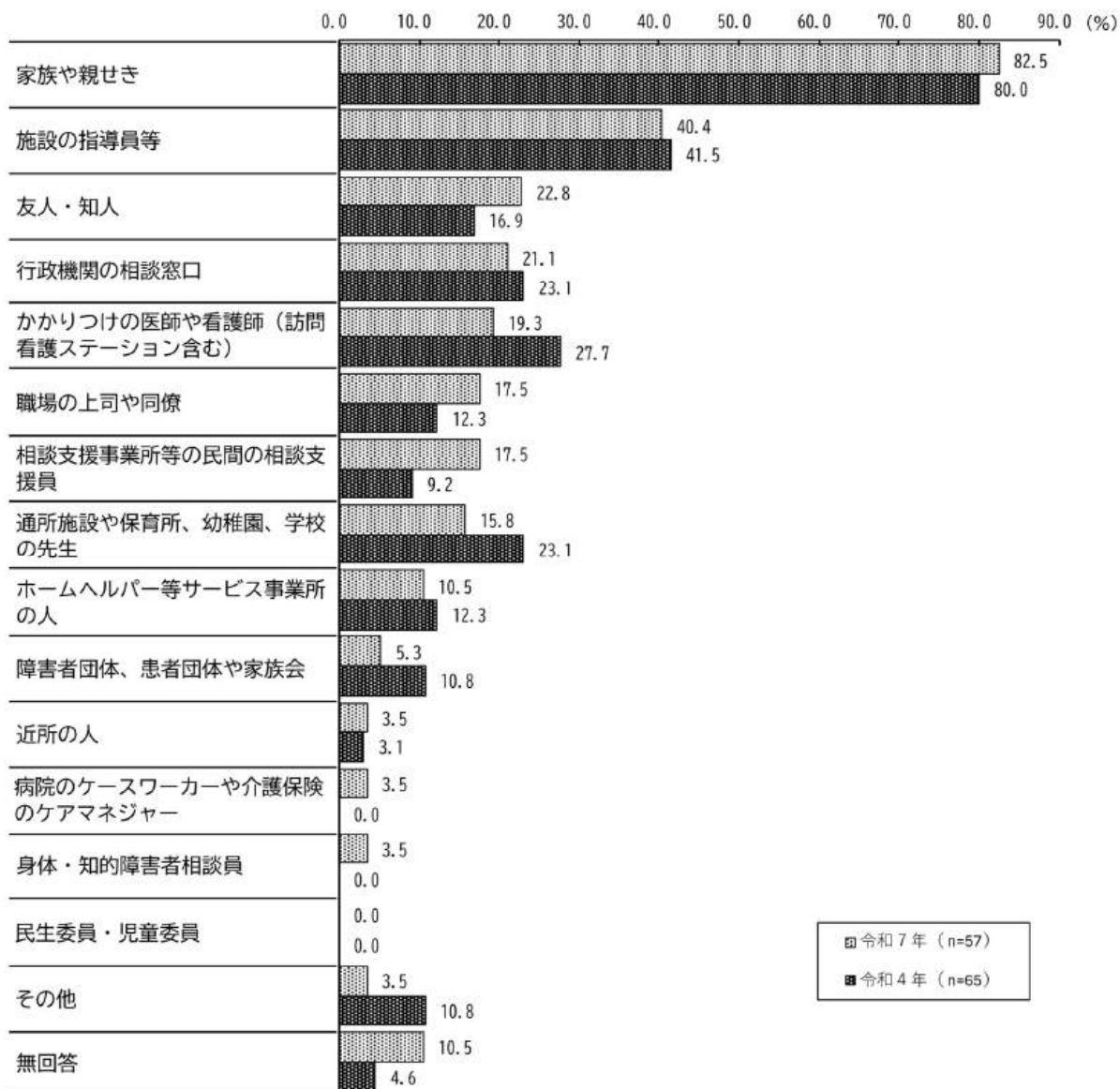
悩みや困り事の相談先（経年比較）＜全体（身体、知的、精神、難病）＞



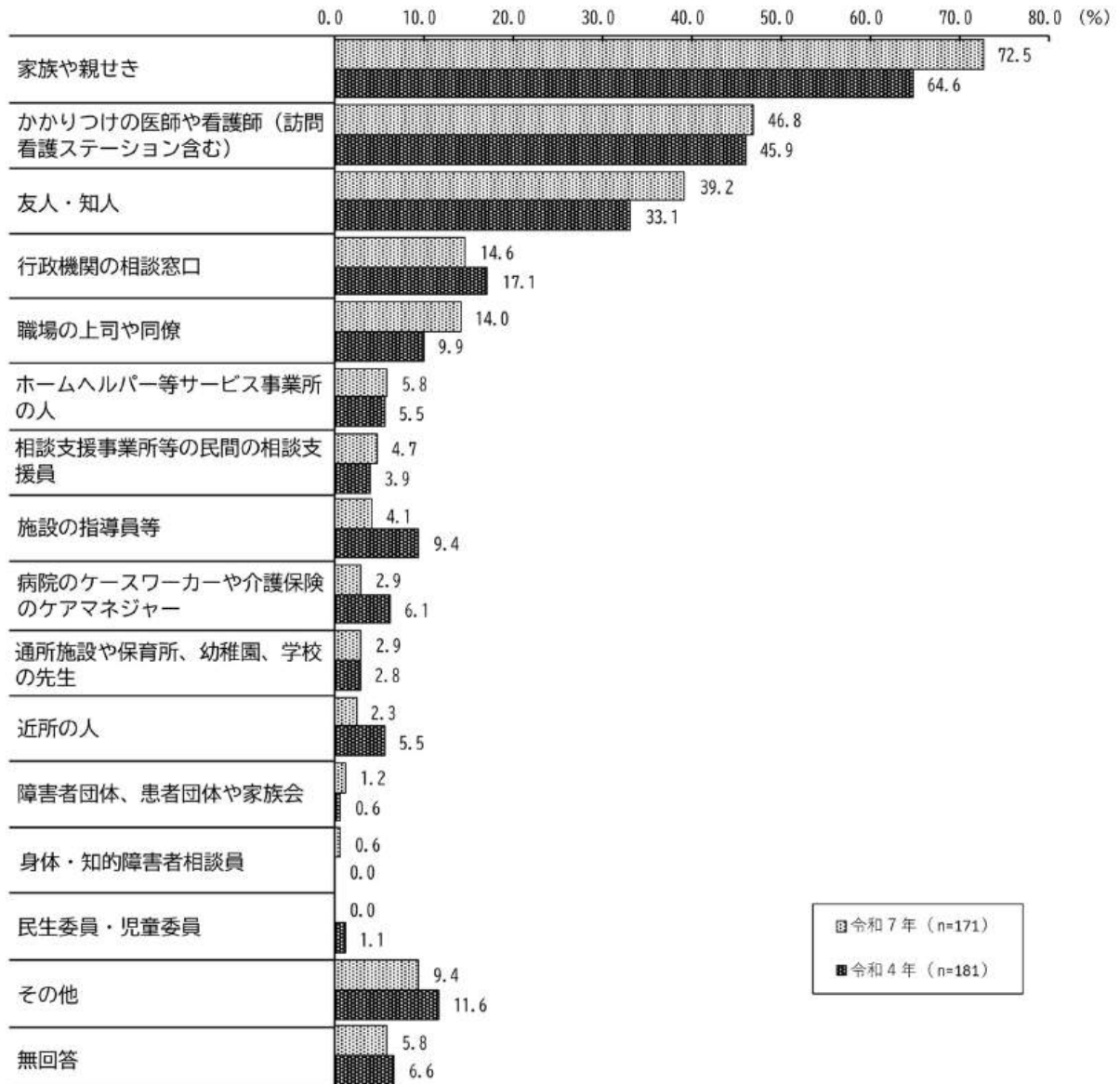
悩みや困り事の相談先（経年比較）＜身体＞



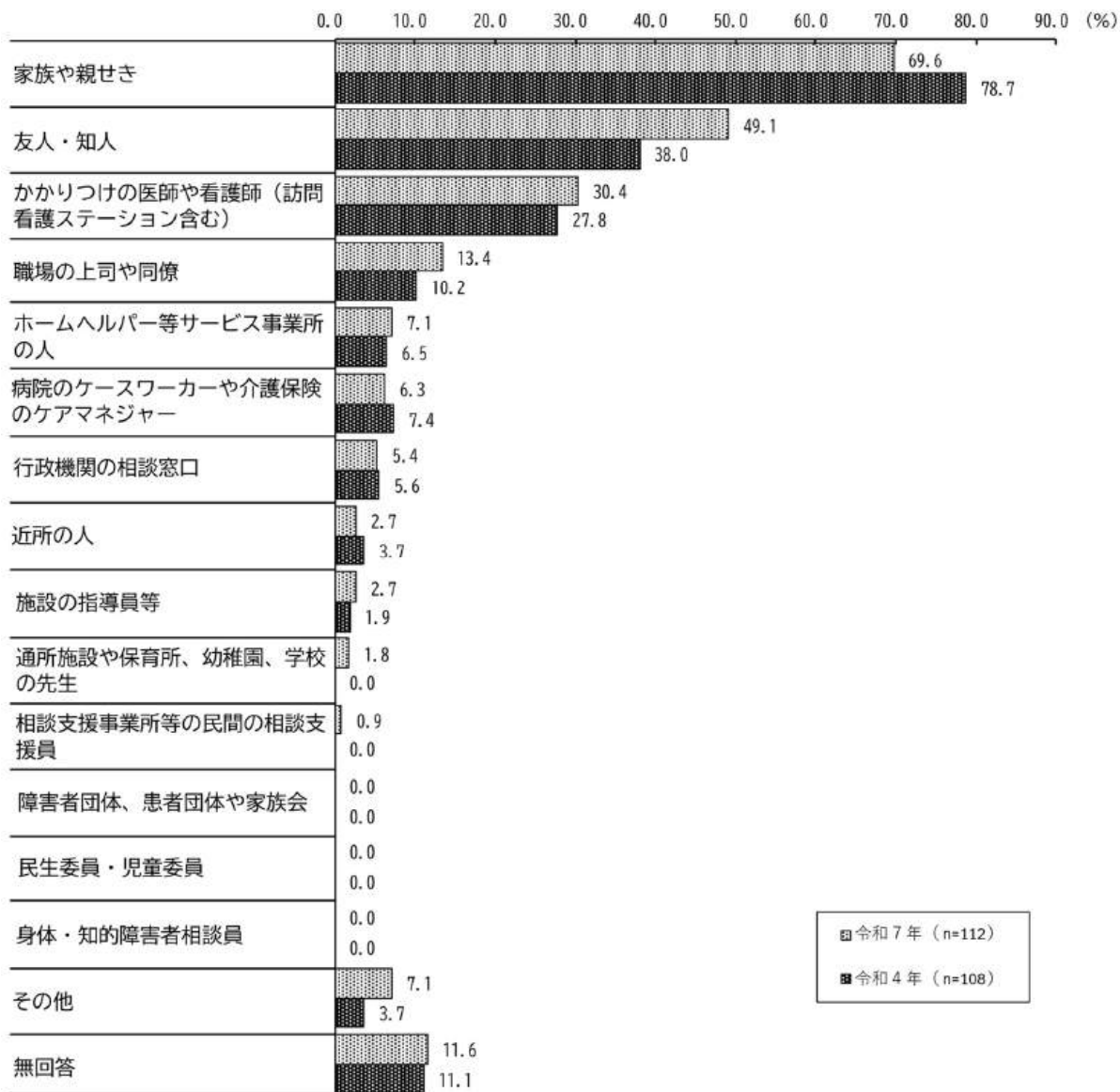
悩みや困り事の相談先（経年比較）＜知的＞



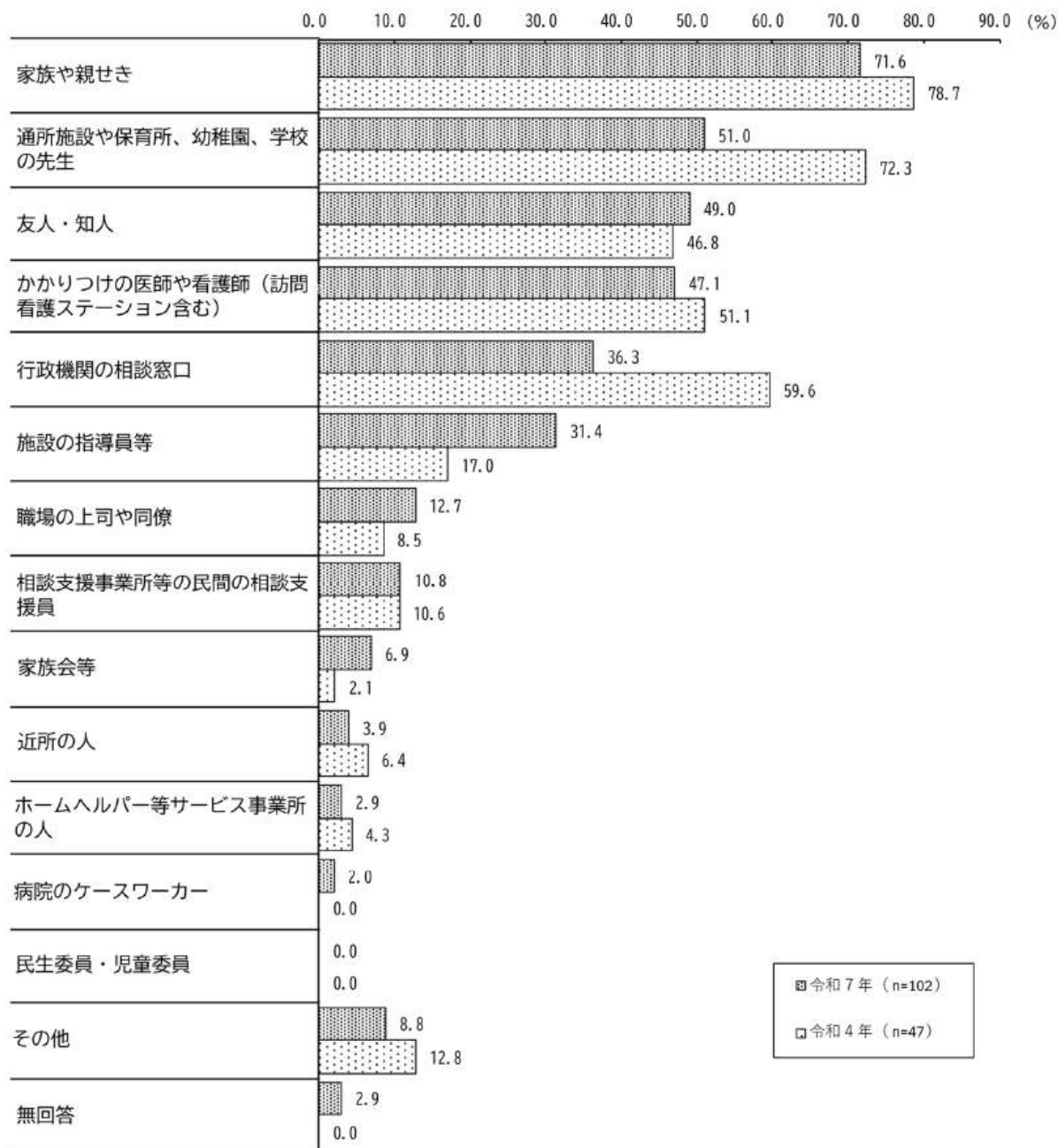
悩みや困り事の相談先（経年比較）＜精神＞



### 悩みや困り事の相談先（経年比較）＜難病＞



悩みや困り事の相談先（経年比較）＜障害児＞

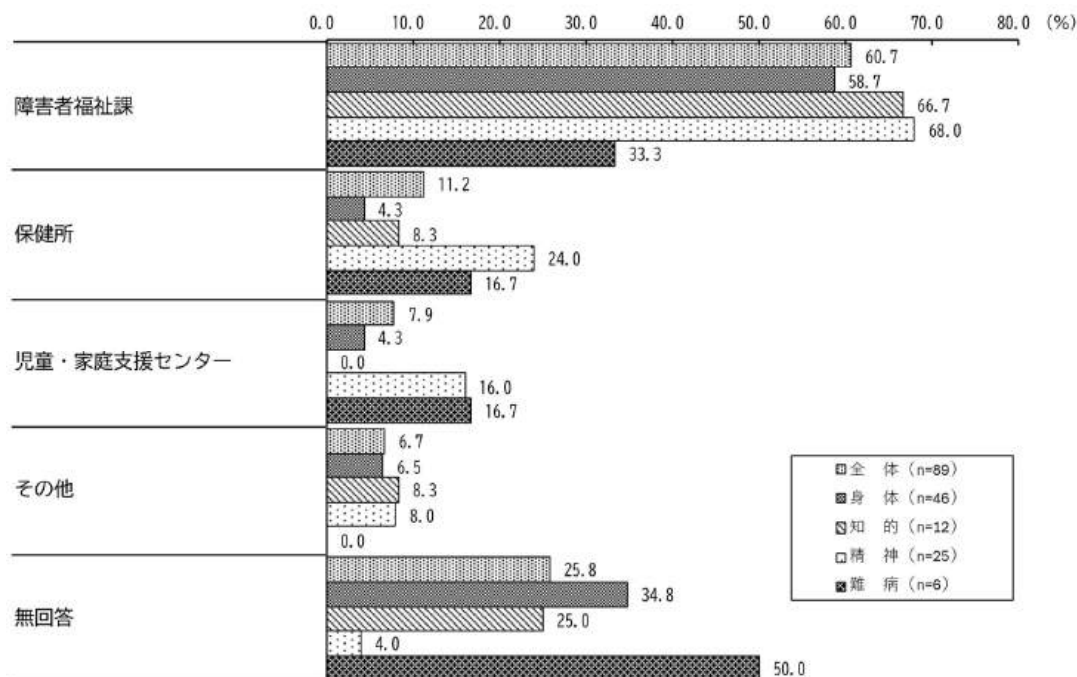


「行政機関の相談窓口」と答えた方の具体的な機関について、全体でみると、「障害者福祉課」が60.7%で最も高く、次いで「保健所」が11.2%、「児童・家庭支援センター」が7.9%となっている。

調査票種別でみると、すべての種別で「障害者福祉課」の割合が最も高くなっている。

### 悩みや困り事の相談先 <全体（身体、知的、精神、難病）>

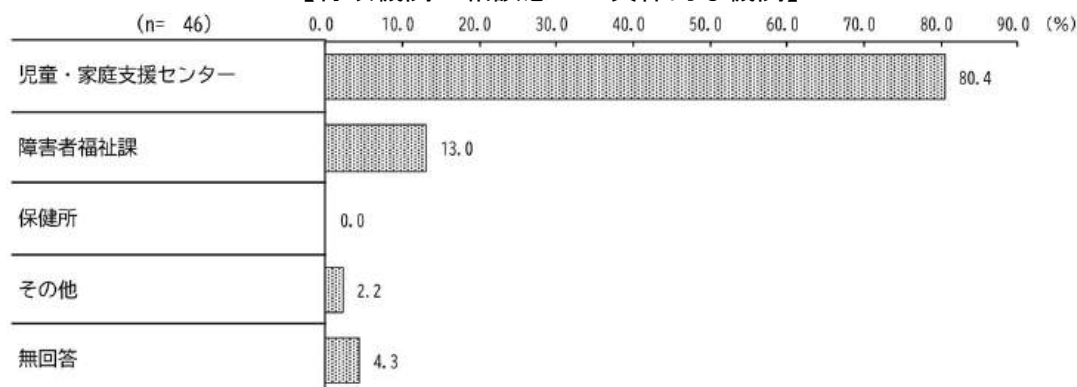
#### 【行政機関の相談窓口の具体的な機関】



障害児の「行政機関の相談窓口」と答えた方の具体的な機関をみると、「児童・家庭支援センター」が80.4%で最も高く、次いで「障害者福祉課」が13.0%となっている。

### 悩みや困り事の相談先 <障害児>

#### 【行政機関の相談窓口の具体的な機関】



**【経年比較】**

令和4年調査と比較すると、全体では、「障害者福祉課」が6.9ポイント増加している。

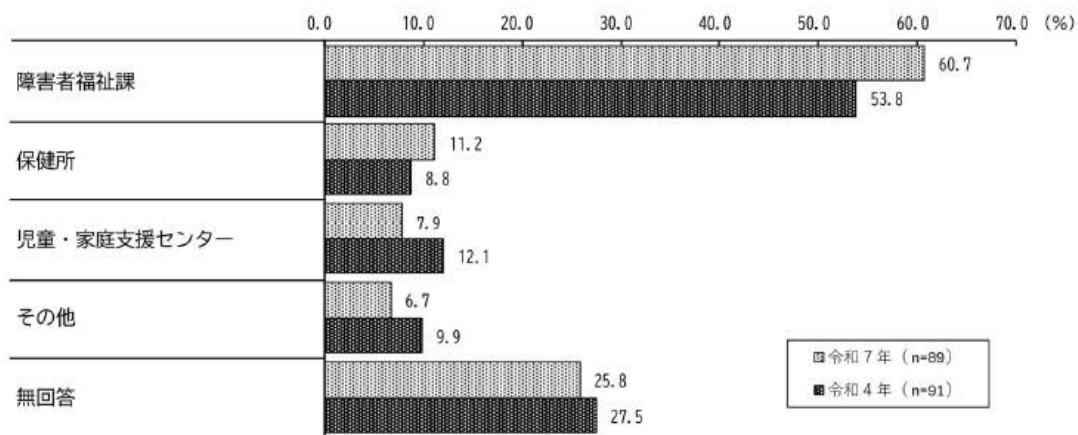
調査票種別でみると、難病で「保健所」、「児童・家庭支援センター」がそれぞれ16.7ポイント増加し、知的で「児童・家庭支援センター」が20.0ポイント減少している。

障害児では、「障害者福祉課」が9.4ポイント増加し、「児童・家庭支援センター」が16.0ポイント減少している。

「障害者福祉課」が、全体では令和4年から引き続き最も高い傾向にあること、障害児でも令和4年から増加傾向にあることから、相談先として定着していることがわかる。

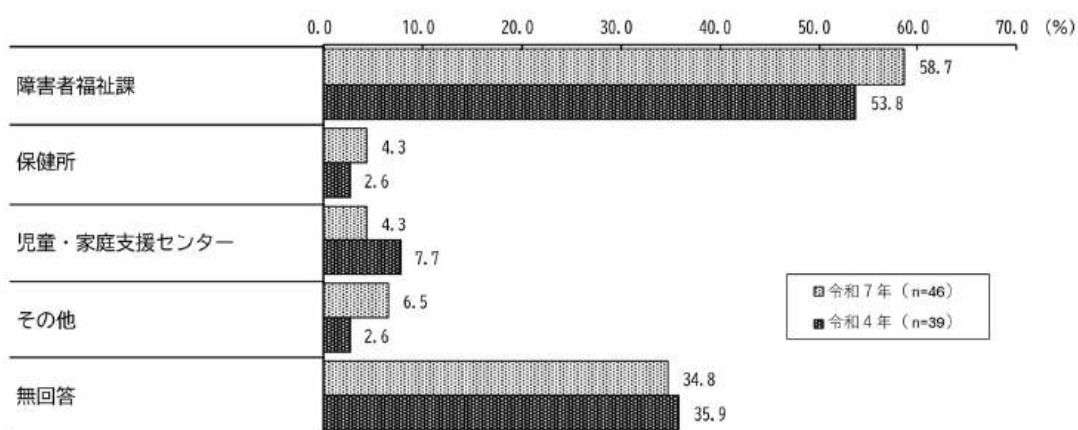
**悩みや困り事の相談先（経年比較）＜全体（身体、知的、精神、難病）＞**

**【行政機関の相談窓口の具体的な機関】**



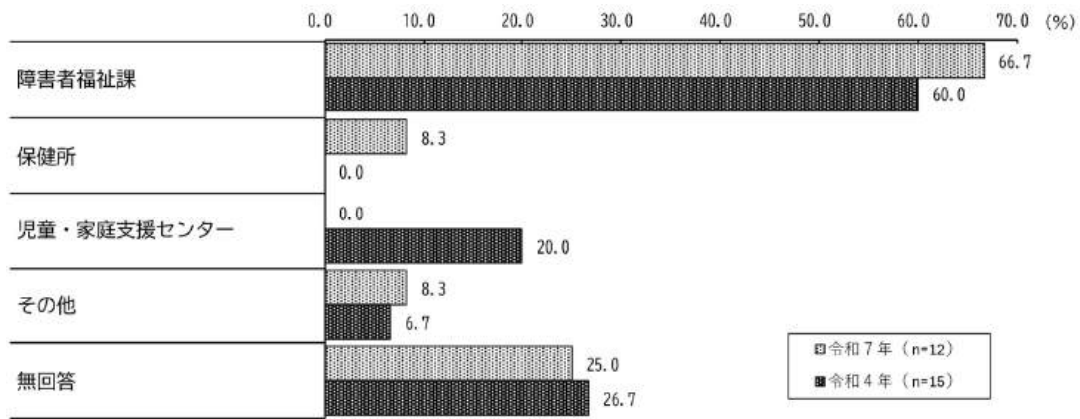
**悩みや困り事の相談先（経年比較）＜身体＞**

**【行政機関の相談窓口の具体的な機関】**



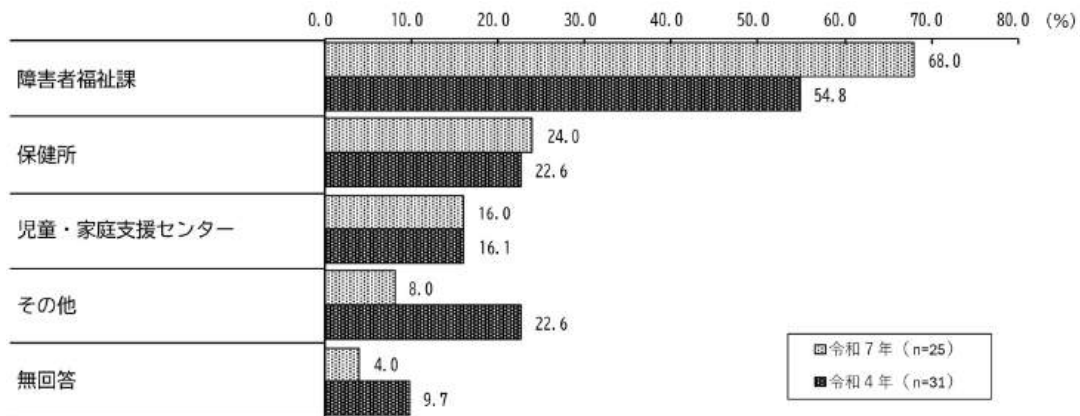
悩みや困り事の相談先（経年比較）＜知的＞

【行政機関の相談窓口の具体的な機関】



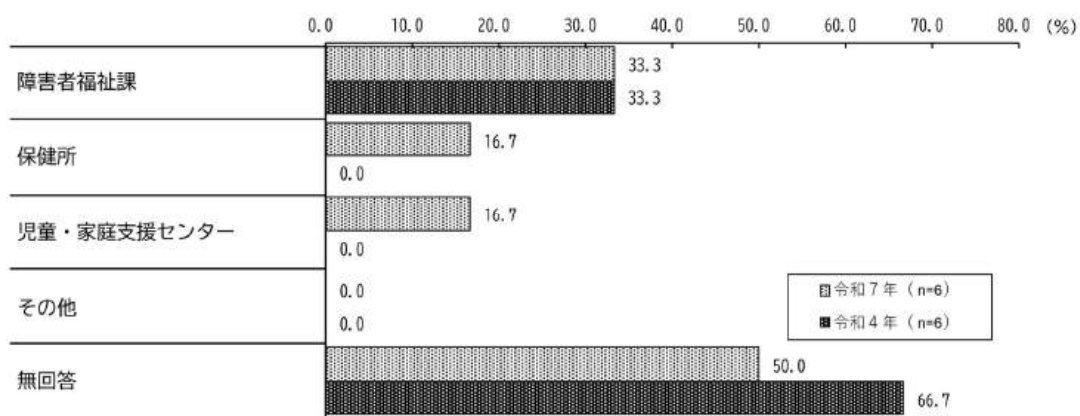
悩みや困り事の相談先（経年比較）＜精神＞

【行政機関の相談窓口の具体的な機関】



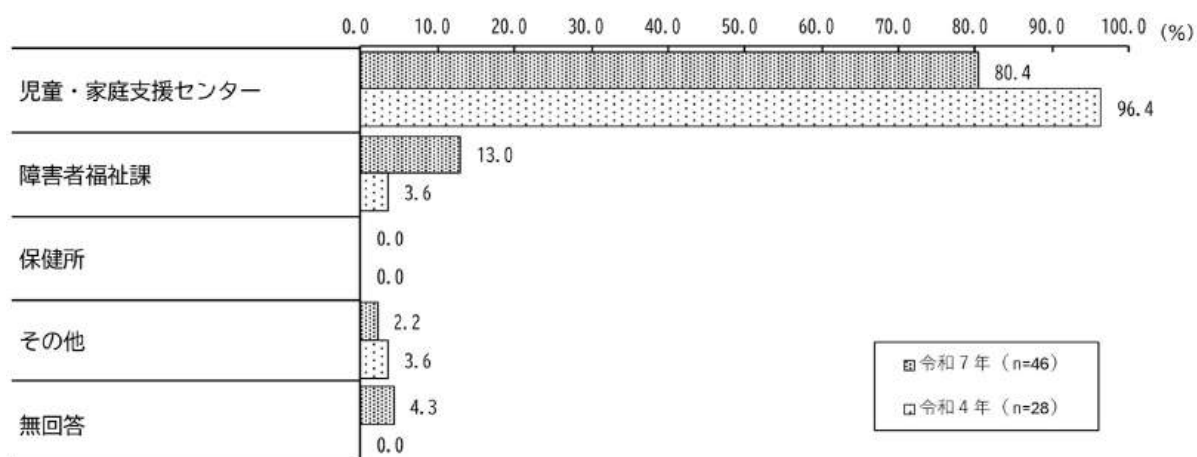
悩みや困り事の相談先（経年比較）＜難病＞

【行政機関の相談窓口の具体的な機関】



悩みや困り事の相談先（経年比較）＜障害児＞

【行政機関の相談窓口の具体的な機関】



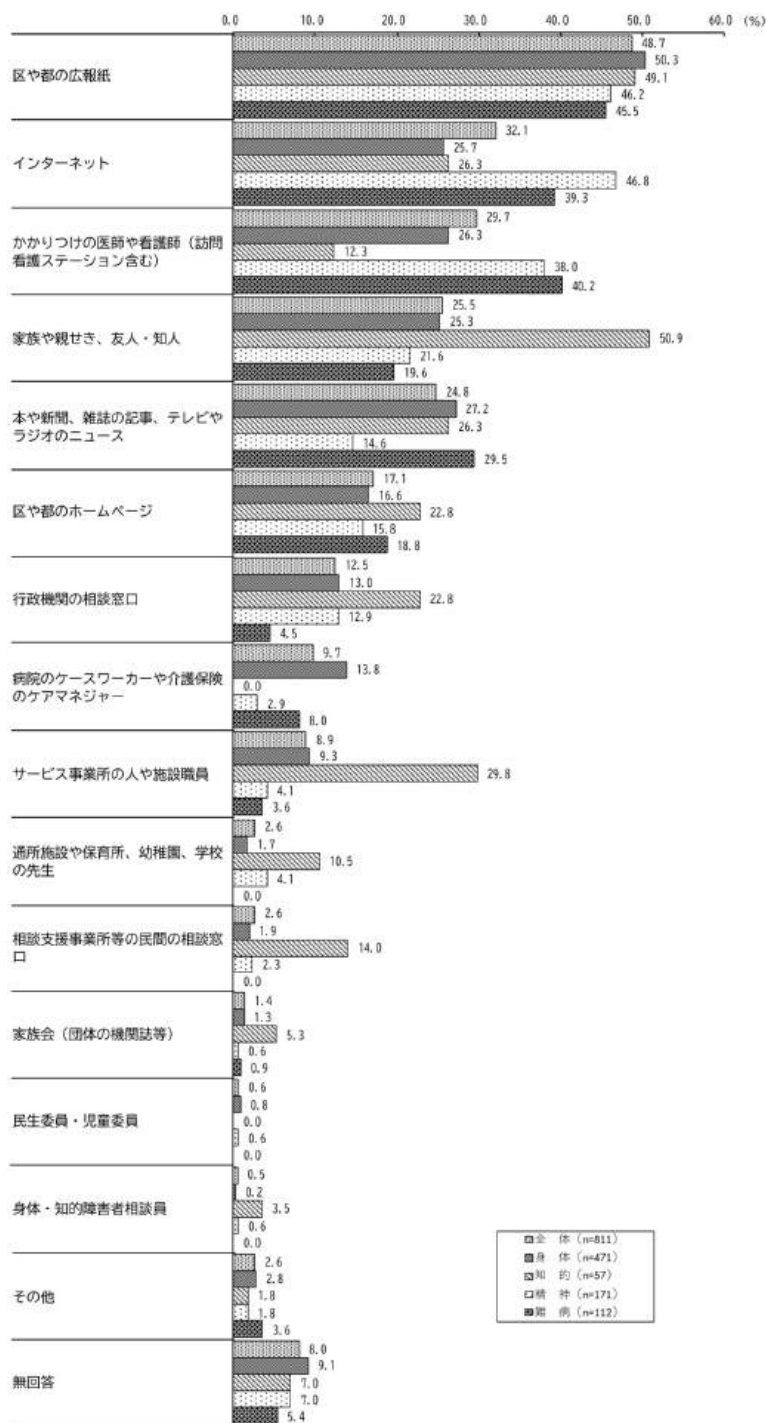
## (2) 障害や障害福祉サービスの情報の入手先

問 あなたは障害や疾病のことや福祉サービス等に関する情報を、どこから知ることが多いですか。  
(〇はいくつでも)

障害や障害福祉サービスの情報の入手先について、全体で見ると、「区や都の広報紙」が48.7%で最も高く、次いで「インターネット」が32.1%、「かかりつけの医師や看護師（訪問看護ステーション含む）」が29.7%などとなっている。

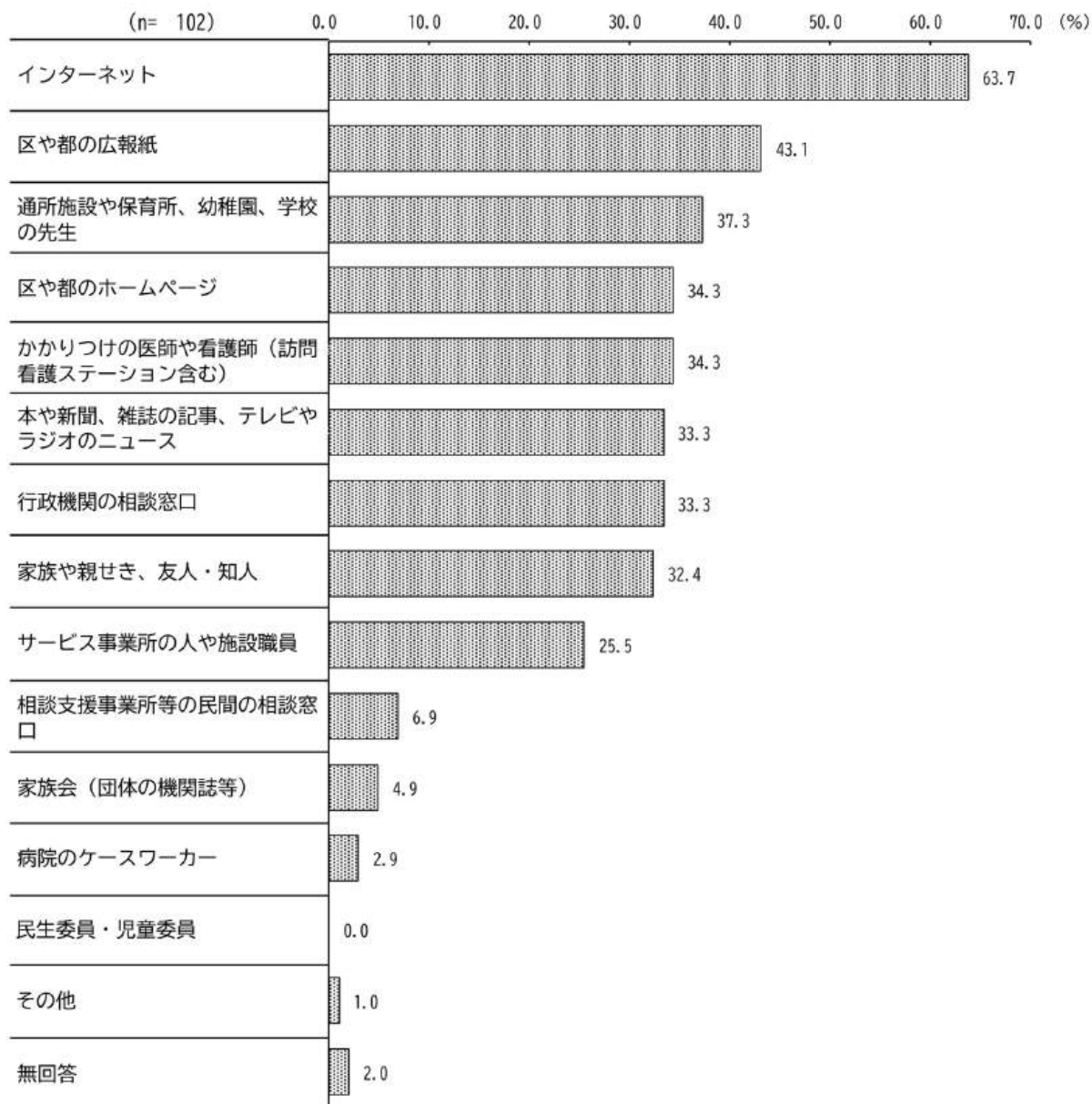
調査票種別で見ると、身体、難病では「区や都の広報紙」、知的では「家族や親せき、友人・知人」、精神では「インターネット」の割合が最も高くなっている。

障害や障害福祉サービスの情報の入手先 <全体（身体、知的、精神、難病）>



障害児の障害や障害福祉サービスの情報の入手先をみると、「インターネット」が63.7%で最も高く、次いで「区や都の広報紙」が43.1%、「通所施設や保育所、幼稚園、学校の先生」が37.3%などとなっている。

### 障害や障害福祉サービスの情報の入手先 <障害児>



## 【経年比較】

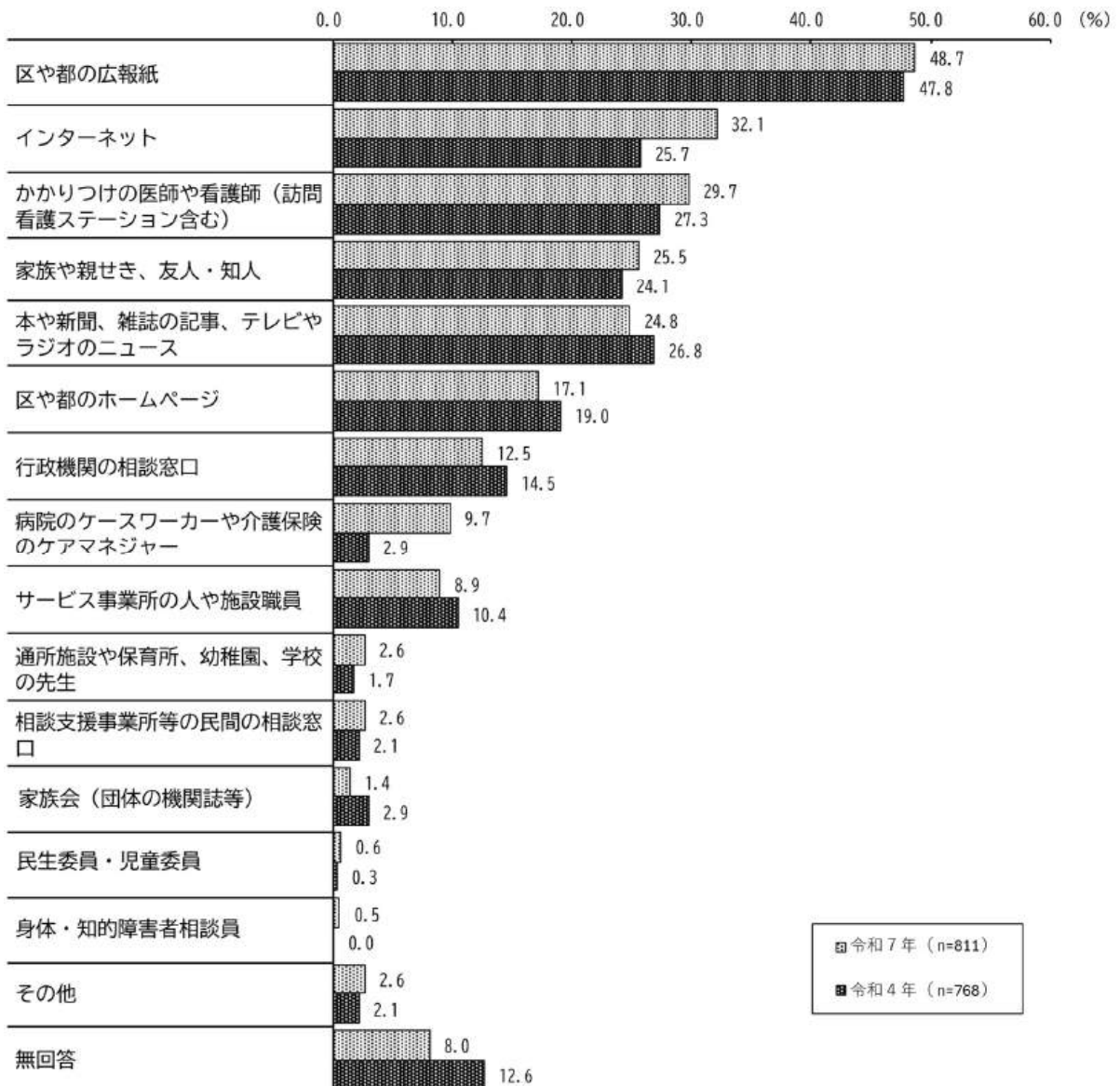
令和4年調査と比較すると、全体では、「病院のケースワーカーや介護保険のケアマネジャー」が6.8ポイント、「インターネット」が6.4ポイントそれぞれ増加している。

調査票種別でみると、身体で「病院のケースワーカーや介護保険のケアマネジャー」が10.9ポイント増加している。また、知的では「家族や親せき、友人・知人」が17.1ポイント、「本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオのニュース」が9.4ポイントそれぞれ増加している。

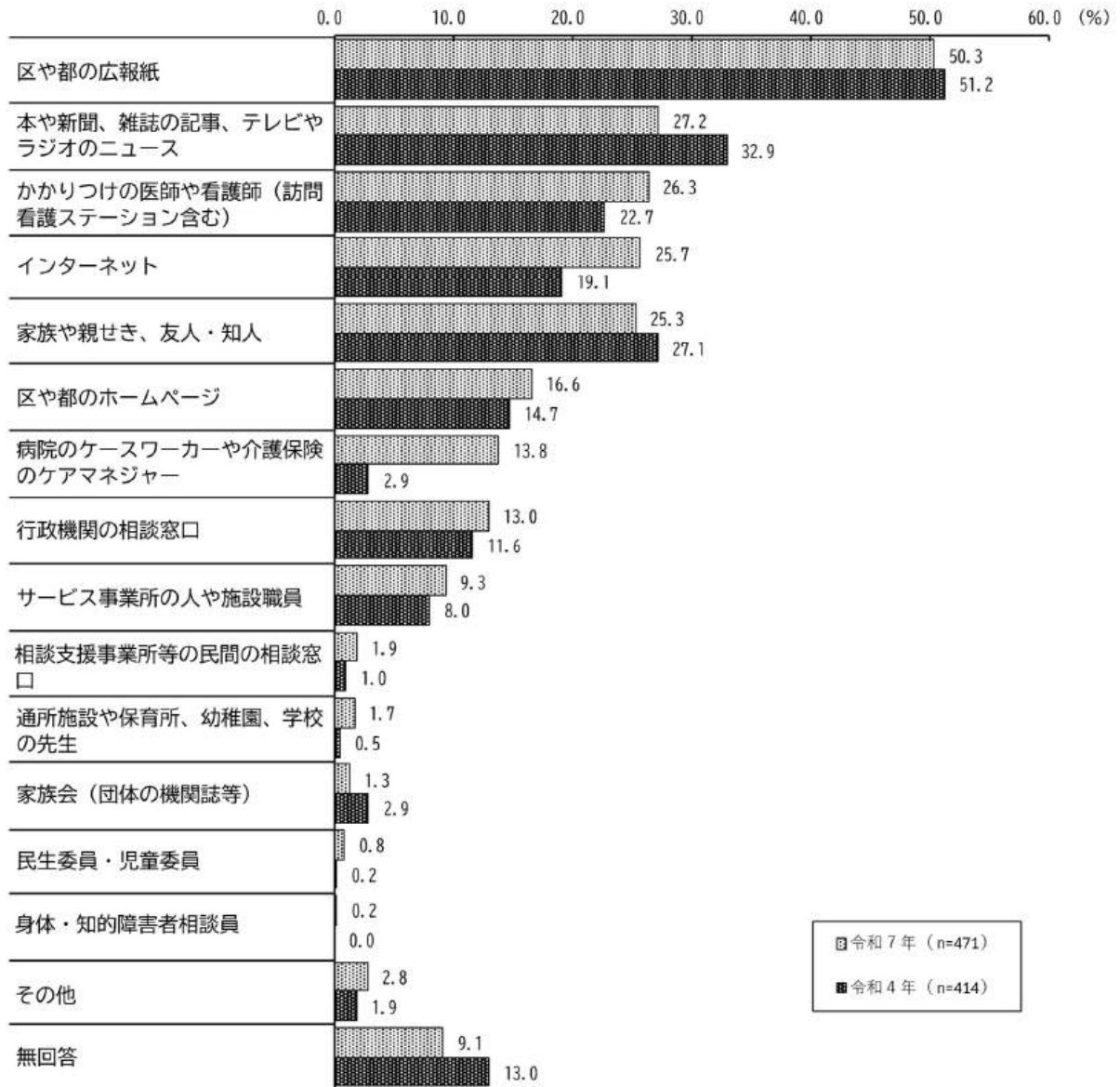
障害児では、「本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオのニュース」が16.3ポイント、「区や都の広報紙」が15.4ポイントそれぞれ増加し、「行政機関の相談窓口」が19.9ポイント減少している。

令和4年調査に引き続き、全体では「区や都の広報紙」、障害児では「インターネット」が最も高くなっており、異なる収集方法が用いられている。そのため、いずれの媒体からでも常に最新の情報を取得できる環境の構築が求められる。

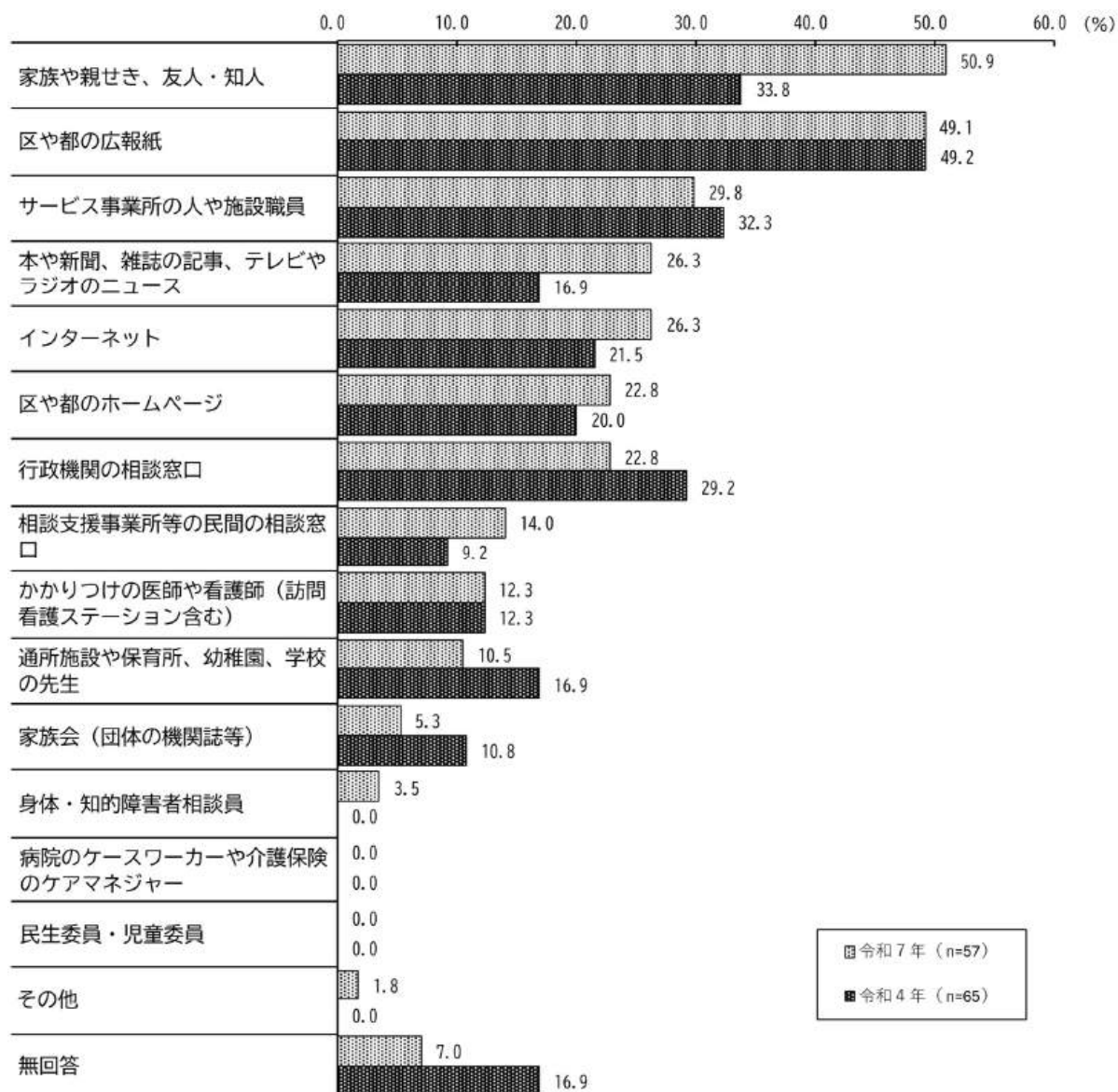
障害や障害福祉サービスの情報の入手先（経年比較）＜全体（身体、知的、精神、難病）＞



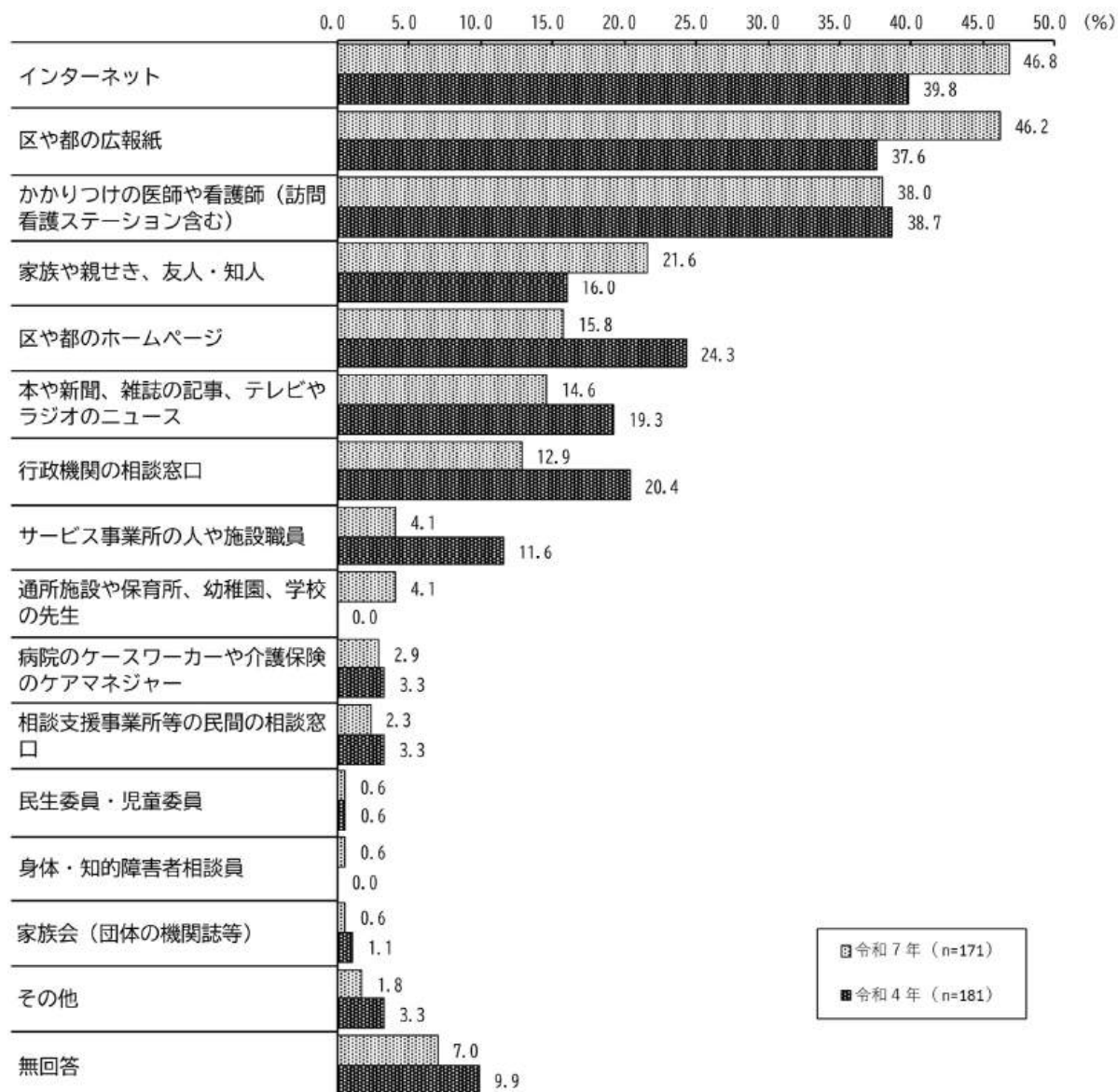
障害や障害福祉サービスの情報の入手先（経年比較）＜身体＞



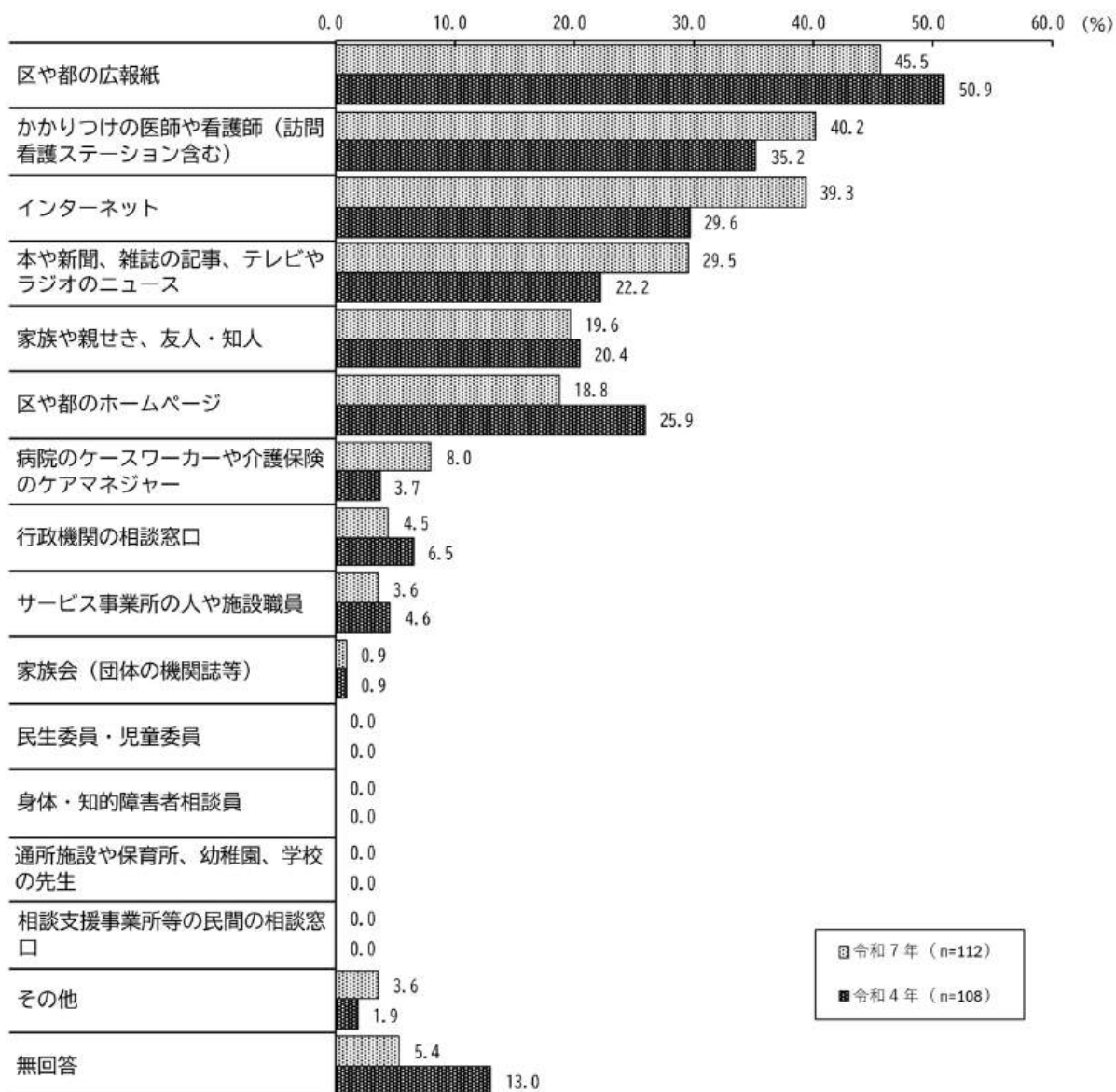
### 障害や障害福祉サービスの情報の入手先（経年比較）＜知的＞



### 障害や障害福祉サービスの情報の入手先（経年比較）＜精神＞



### 障害や障害福祉サービスの情報の入手先（経年比較）＜難病＞



障害や障害福祉サービスの情報の入手先（経年比較）＜障害児＞

